

平成 28 年度 豊岡市環境報告書  
コウノトリと暮らす豊岡の環境



▲ビオトープ八条に降り立ったコウノトリ（平成 28 年 9 月 撮影）

平成 29 年 11 月  
豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

**\*\*\*\*\* 目 次 \*\*\*\*\***

**第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について（P1～4）**

**第2部 「目標とする姿」への取り組み状況（P5～36）**

**第3部 豊岡市の環境の状況（P37～46）**

**第4部 市の取り組み実績（P47～62）**

**第5部 前年度環境審議会意見の反映状況(市の取り組み)（P63～68）**

**第6部 平成 27 年度の環境に関する取り組みについて  
豊岡市環境審議会の意見(P69～72)**

## 第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について

### ■豊岡市環境基本計画について

第1次環境基本計画の体系図は、次頁のとおりです。計画の基本理念・基本方針をもとに、10年後に到達すべき10個の「目標とする姿」を描き、それを実現するための具体的な方向性と行動指針を定めています。

平成28年度に見直しを行い、第2次環境基本計画を策定しました。

### ■環境報告書について

この「豊岡市環境報告書」は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年、環境の状況や計画の取り組み状況等について、豊岡市環境審議会の意見を付して公表するものです。

今回の環境報告書の取りまとめにあたっては、第1次環境基本計画の10個の「目標とする姿」への達成状況を、それぞれ「もっとがんばろう」・「この調子でがんばろう」・「よくがんばりました」の3段階で評価しました。

# 豊岡市環境基本計画の体系

## ■基本理念(第3章) 計画を進めるにあたっての基本的な考え方は次のとおり。

- 1 豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- 2 良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- 3 地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

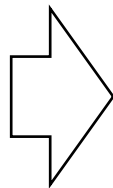
私たちは、次の6つの合言葉をいつも  
気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちがあたる」  
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

## ■基本方針(第3章)

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献

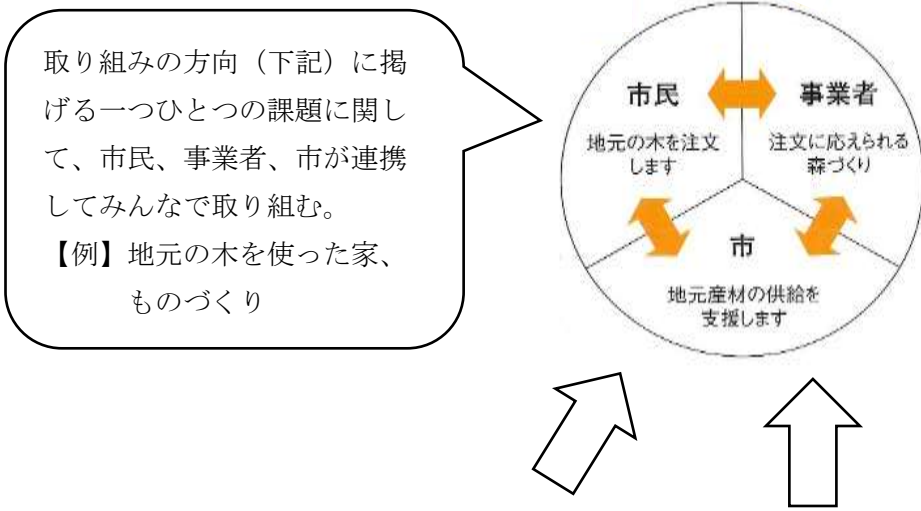


## ■目標とする姿(第1章)

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像。

- 1 里山では山の幸もよみがえりました
- 2 遊んでいる田んぼを見かけなくなりました
- 3 あちこちの川で子どもたちが遊んでいます
- 4 ごみのない海辺では、子どもたちが「磯遊び」を楽しんでいます
- 5 子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます
- 6 コウノトリがすべての中学校区に住んでいます
- 7 収集されるごみの量は、ピーク時に比べ25%減りました
- 8 子どもが安心して道草をしながら帰ります
- 9 たくさんの豊岡ブランドが生まれ、市民みんなが使っています
- 10 市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます

注) 豊岡市環境基本計画は、平成19年度から10年間の計画です。  
「目標とする姿」は、平成29年度の豊岡市の姿を想定しています。



### ■取り組みの方向(第4章)

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取り組みを進めていく方向を示す。

- 1 森林を保全し、活用します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 農業を将来にわたって維持します
- 4 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 5 地域の文化や景観を保存し、活用します
- 6 ごみの減量・再資源化を進めます
- 7 地域力を高めます
- 8 地域から学ぶ学習・教育を進めます
- 9 環境意識を高めます
- 10 環境に関する知の集積を図ります
- 11 地産地消を進めます
- 12 環境と経済の共鳴を進めます
- 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります
- 14 公害を防止します（大気汚染、騒音、悪臭、振動、土壌汚染、光害など）

### ■市民・事業者・市のそれぞれの取り組み

市民、事業者、市のそれぞれの具体的な取り組みを行動指針として示す。

- 1 市民（来訪者）の取り組み
- 2 事業者の取り組み
- 3 市の取り組み

【来訪者に求めること】  
来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。



## 第2部 「目標とする姿」への取り組み状況

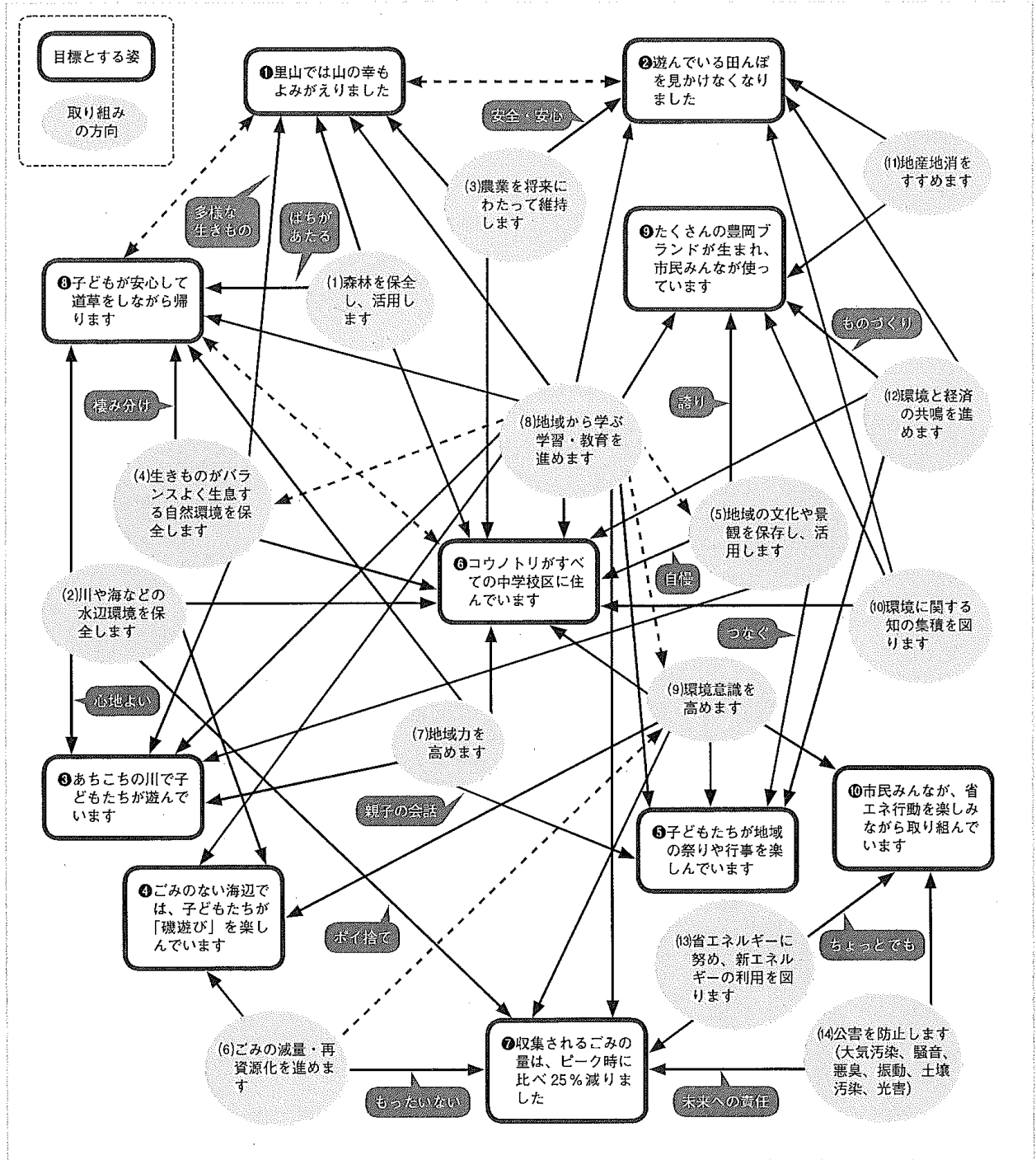
### ■取り組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、平成28年度を含む「主な指標の変化」（平成19年度～）と28年度の特徴的なトピックを掲載し、現時点での取り組み状況の評価を行っています。

■目標像に向けた取り組みの方向

10個の「目標とする姿」と、それを実現するための14個の「取り組みの方向」の相関関係を表す展開図は下記のとおりです（環境基本計画P78「資料編」資料1参照）。

一つの行動が、いくつもの目標像実現につながっています。





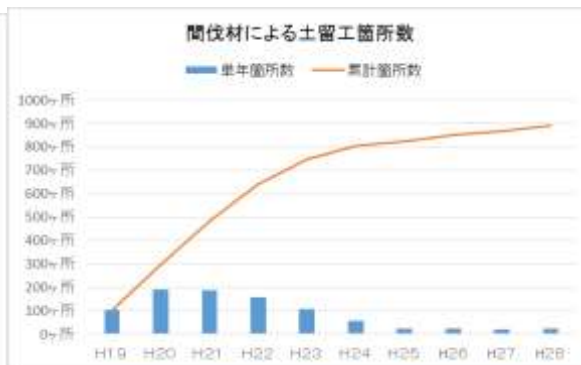
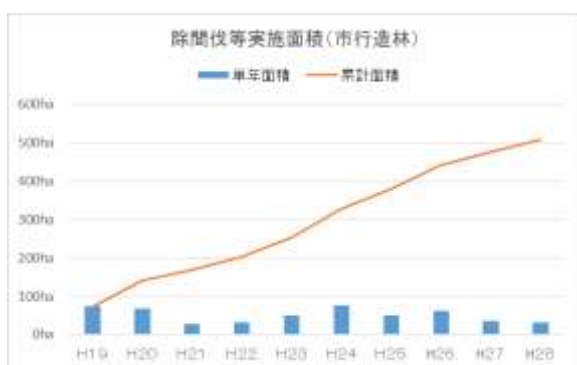
# 目標像 01 「里山では山の幸もよみがえりました」

【具体イメージ】 木材が燃料としても利用されるようになりまし  
 した／山菜やマツタケがたくさん採れるようになりました／  
 有害鳥獣が人里近くに出て来なくなりました

【実現するための主な取り組み方向】 方向 01 森林を保全  
 し、活用します／方向 04 生きものがバランス良く生息す  
 る自然環境を保全します

## 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

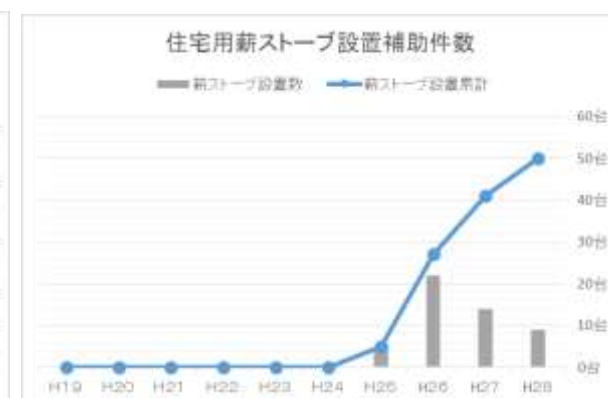
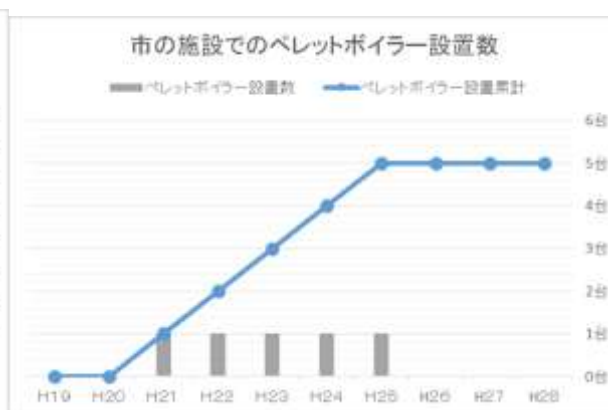
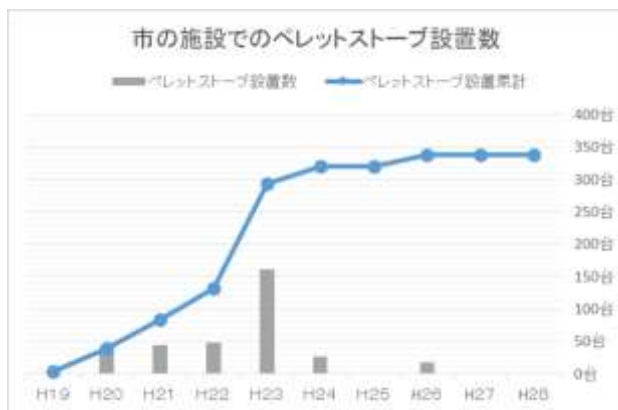
### （1）里山での間伐等の状況



#### 【解説】

- ・うっそうと茂った里山に光を入れるための「除間伐（じょかんばつ）」と、間伐材（かんばつざい）の有効利用を進めています。
- ・間伐材をそのまま地すべり防止に活用する「土留工（どどめこう）」もその一つです。また、搬出してペレットを製造し自然エネルギーとして利活用もしています。

### （2）燃料用ペレット等としての間伐材利用

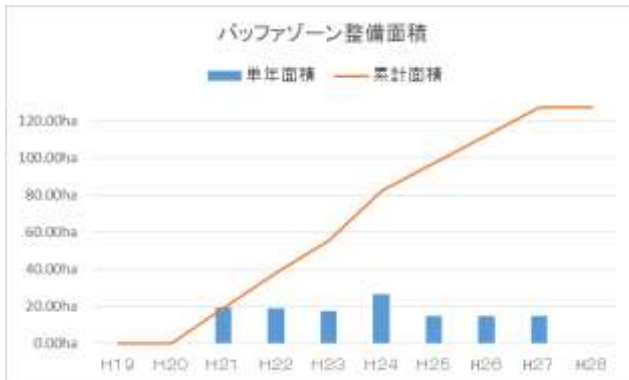
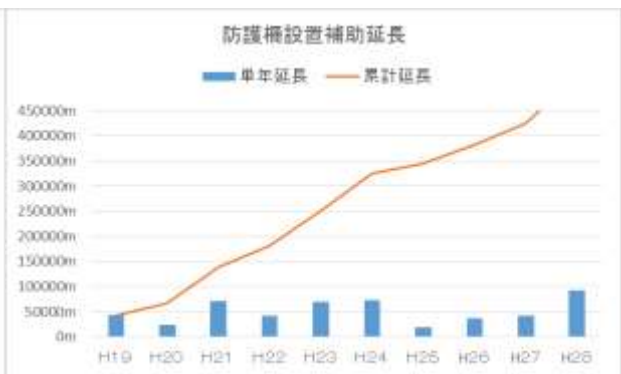




【解説】

- ・間伐材をはじめ木材利用の一つとして、木質ペレットの製造と消費拡大を進めています。平成 26 年度の製造量をピークに減少しています。これは、ペレットの使用コストに比べ灯油価格の方が安価であったため、一部の温泉施設等でペレットの使用が控えられたことが原因と考えられます。
- ・住宅用ペレットストーブ補助件数については、事業所など法人を含む総件数です。

(3) 有害獣への対応



【解説】

- ・市では引き続き、シカ有害被害撲滅大作戦を展開しており、平成 28 年度年間捕獲目標 6,500 頭に対して、6,568 頭が捕獲されており、捕獲目標をクリアしていますが、前年度より 700 頭以上減っています。(狩猟による頭数を含む)
- ・左上の有害鳥獣駆除数のグラフは、有害鳥獣駆除のみの数値であり、11 月から 3 月までの狩猟期に個人が捕獲したものについては含まれていません。

ペレットの普及を目指して！

豊岡で、ペレットの製造と言えば「豊岡ペレット」が知られていますが、もう 1 社、川中建築（城崎町来日）も取り組んでおられます。

こちらのペレットも、地域にある原材料でペレットを製造することにより、お金を地域内で循環させることを目指し、製材加工工場が出る端材を利用するとともに、最近では、原料の一部に葦を利用したペレットを製造・販売されています。

まだまだ、一般の方にはなじみが薄いペレットを多くの人に知ってもらうため、様々なイベントに出かけて行ったりは、ペレットを利用してピザや焼き芋を焼いて PR に取り組まれています。温度調整のできるレンタル・ペレット窯もあります。皆さんの近くのイベントでも利用して、ペレットの消費拡大と PR につなげていきましょう。



## 2 平成 28 年度評価

- 住宅へのペレットストーブや薪ボイラーの設置が、浸透してきている。
- 有害獣対策では期間限定であるが、熊の狩猟も始まった。
- ▲有害獣対策として駆除や防護柵の設置は進んでいるが、まだまだ解決にはなっていない。
- ▲クマの目撃情報が多くあり、山菜狩りなどを楽しみにしていた人も、山に入れなくなってきている。
- ▲ペレットの消費量が伸び悩んでいる。

もっと  
がんばろう

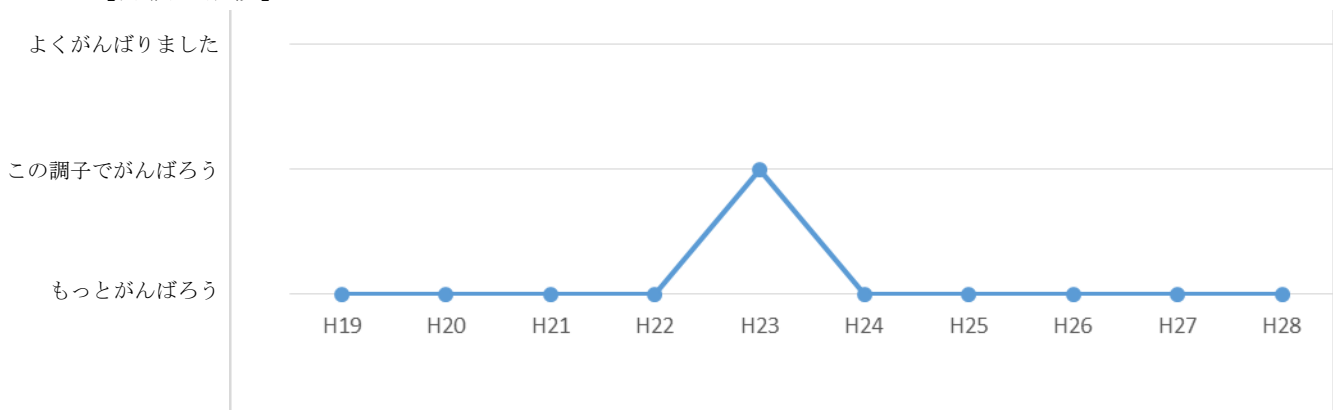
## 3 10 年間の評価

- 平成 23 年度にペレットの製造工場が出来て、域内の間伐材の利用が進んでいる。
- ペレットストーブ、ペレットボイラーの設置が進み、自然エネルギーの利用者が増えつつある。
- ▲ペレットの消費量が増えず、当初目標数量に届いていない。
- ▲有害獣対策として駆除や防護柵の設置は進んでいるが、個体数の減少が実感されるには至っていない。耕作放棄地も中山間地では多く見られ、人と動物の境界が民家の近くにまで及んでいる。

### 【環境審議会からの一言】

体感的に、山ぶき、ぜんまい、ごみや栃の実などの山の幸がシカなどに食べられて激減している。そのため、山菜採りを楽しむ人も減り、民宿等での利用に支障が出ている。

### 【評価の推移】



## 目標像 02 「遊んでいる田んぼを見かけなくなりました」

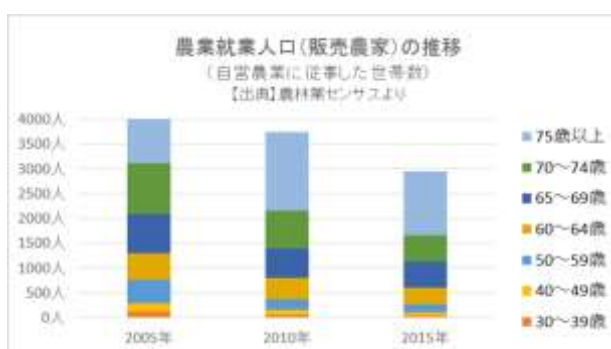
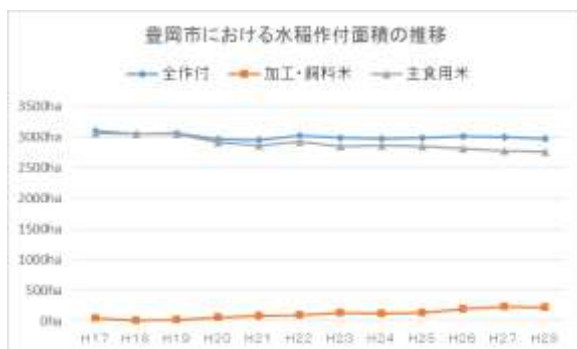
【具体イメージ】 農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっ

ています／就農者が増え、地産地消が進んで  
います／農地がビオトープや燃料作物など様々  
な用途に活用されています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 03 農業を将来  
にわたって維持します／方向 11 地産地消を進めます／  
方向 12 環境と経済の共鳴を進めます

### 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

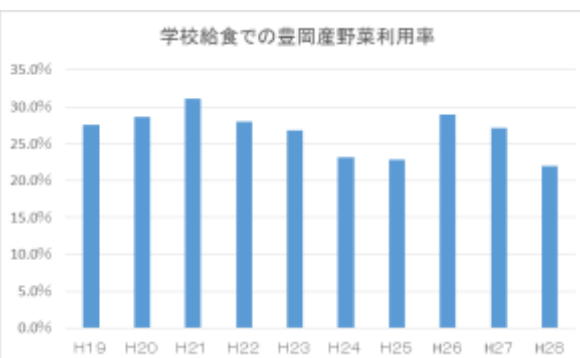
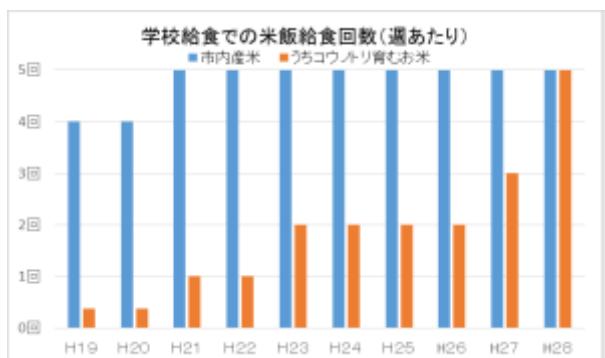
#### （1）豊岡の農業の現状



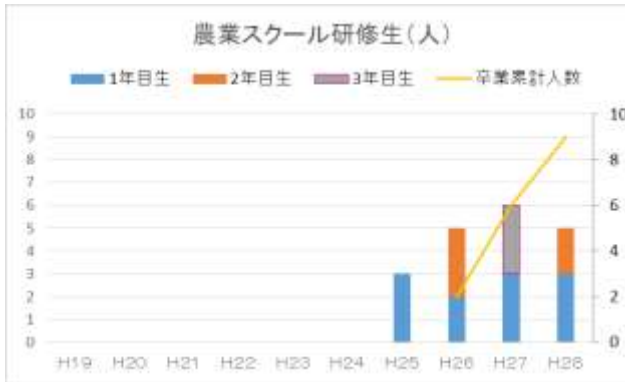
#### 【解説】

- ・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、「豊岡型環境創造型農業」（農薬 50%以上・化学肥料 50%以上減）を、平成 33 年に全耕作面積の 51%（過半数）にすることを目標に、新たな栽培方策を導入するなどして、普及拡大を図っています（平成 28 年度末 37.2%）。
- ・就農者の高齢化・減少が進む中で大規模集約化の方向にあり、認定農業者や集落営農組織、農業法人等の数が少しずつ増加しています。

#### （2）学校給食への利用



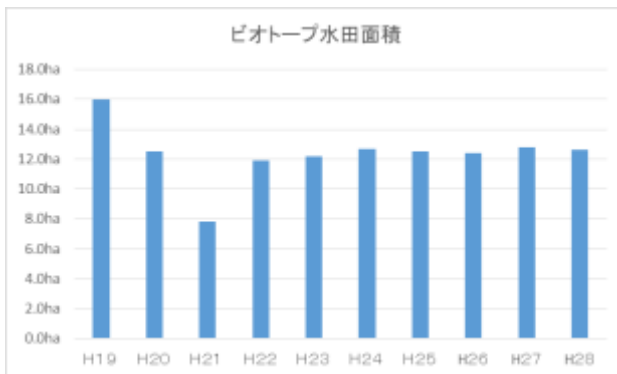
### (3) 農業スクール研修生



#### 【解説】

- ・(前頁) 米飯給食については、豊岡市コウノトリ基金を活用し、保護者の負担を増やすことなく、週5日全てが「コウノトリ育むお米」になりました。
- ・(左) 平成25年度に新規就農希望者が、就農に必要な農業生産技術と経営管理能力を習得できるように「豊岡農業スクール」を開校しました(研修期間: 1年※更新により最長3年間)。卒業生は雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。
- ・(下) 休耕田の利活用策として、多様な生きものを育む「ビオトープ水田」としての管理委託を行っており、環境学習フィールドとしても活用しています。

### (4) 休耕田の利活用



## 農業と福祉の連携



農業の分野においては近年高齢化が進み、耕作されない田んぼや畑が増えてきています。その一方、新しい担い手として期待できる取組みも出てきました。「農福連携」です。

障害がある方でも、力作業が得意な人、一つの作業に集中できる人、様々な特性があります。その特性を生かし、出来ないことを出来るようにではなく、出来ることをシェアすることでお互いが役割を担い、農作物を作る。新しい農業の形が、全国でも増えてきています。

豊岡市内でも、「暮らしの学校 農楽<sup>のら</sup>(出石町鳥居)」や「森の学校だんだん(竹野町椒)」が、障害があったり対人関係が苦手な方に対する地域活動支援センター事業(※)の一つとして、耕作しなくなった田畑などを借りて、近所の方から指導を受けたりしながら農作業に携わり、収穫の喜びなどを感じながら楽しい時間を過ごしています。



直接耕作するだけでなく、農繁期に農作業の手伝いに行くなど地域との連携が広がれば、耕作放棄地の減少も期待できる取組みの一つです。

※地域活動支援センター事業...在宅生活をされている障害のある方々に対し、仲間たちと交流を深めながら創作的活動、レクリエーション、生産活動などを通じて、社会との交流を促進する取組み。

この調子で  
がんばろう

## 2 平成 28 年度評価

- 環境創造型農業の作付け面積は引き続き増加している。
- 冬期湛水を行う水田が増えている。
- コウノトリ育むお米が、学校給食で毎日（5 日／週）利用されるようになった。
- ▲水稻作付け面積は減り続けている。
- ▲学校給食での豊岡産野菜の利用率が昨年に引き続き減少している。

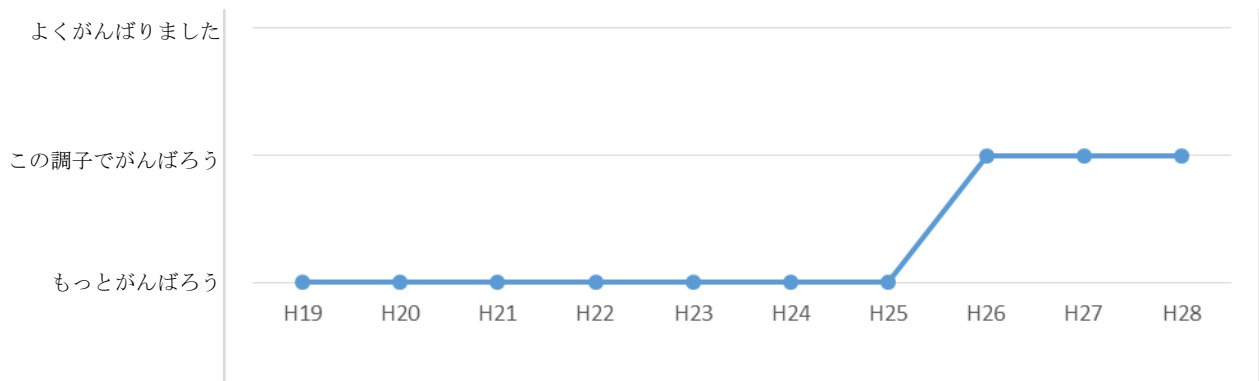
## 3 10 年間の評価

- 平成 28 年度から、学校給食では、週 5 日コウノトリ育むお米が食べられるようになった。
- 環境創造型農業の柱である「コウノトリ育む農法」の作付面積は大きく拡大している。
- 「豊岡農業スクール」が平成 25 年度に開校し、就農する若者を支援する仕組みができた。
- ▲休耕田の利活用策としてのビオトープ水田化が停滞している。
- ▲遊んでいる（耕作されない）田んぼは増えている。
- ▲農業就業人口は減少を続けている。
- ▲豊岡産野菜の学校給食への利用率は増加していない。
- ▲燃料作物（菜の花）の耕作等への転作が普及していない。

### 【環境審議会からの一言】

遊んでいる（耕作されない）田んぼが珍しくなくなり、以前のように“もったいない”という感覚も薄れ、“遊んでいる田んぼ”と言われなくなるほど常態化している。

### 【評価の推移】



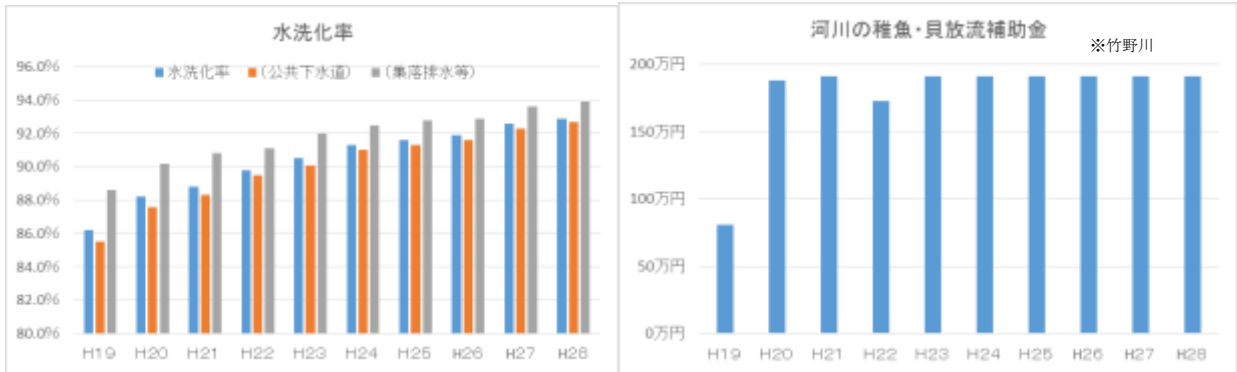
# 目標像 03 「あちこちの川で子どもたちが遊んでいます」

【具体イメージ】 川のごみを見かけなくなりました／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちがきれいな川で魚とり、水遊びをしています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 02 川や海などの水辺環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

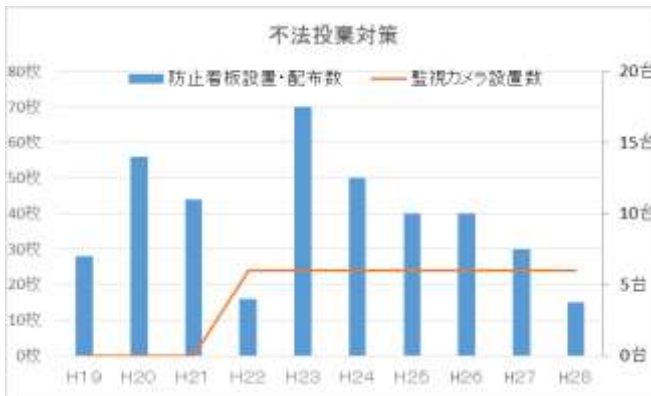
## 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

### （1）川的环境保全



【解説】

- ・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標に毎年少しずつ向上しています。
- ・水産資源保全を主目的に漁業協同組合が稚魚や貝の放流を継続的に行っており、行政としても補助を行っています。



【解説】

- ・平成 27 年度以降防止看板設置・配布数が減少していますが、これは不法投棄多発箇所への設置が、ひと通り終了したためです。
- ・これまで、不法投棄を減らすための対策を講じていますが、状況は中々改善しません。



(番屋峠付近の様子)

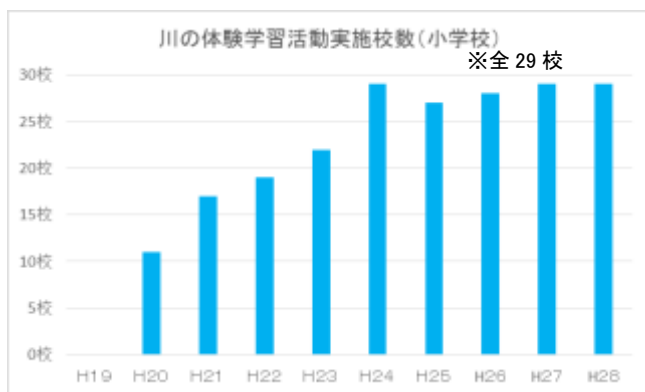
### （2）学習フィールドとしての利用



※28年度の野外キャンプは、雨天のため中止。

【解説】

- ・子どもたちに自然体験を促す「子どもの野生復帰大作戦」においても、川は重要なフィールドです。
- ・近年の参加総数が減少したと感じるのは、運営上平成 22 年度から定員が設けられたため、子どもの数が減る中であって、コウノトリ野生復帰のまち・豊岡らしい事業として定着しています。



【解説】

- 平成 19 年度から兵庫県下で「環境体験学習」(小学校 3 年生対象)が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。川の体験活動も、全ての小学校で行われています。

川も友達。植村スピリット



「植村直己に学ぶ」野外活動実行委員会では、毎年夏休みに 7 泊 8 日の日程で、「植村直己に学ぶサバイバル体験教室」を行っています。

このキャンプの特徴は、毎日の宿営地が違うこと。さらに、豊岡市をはじめ、各地から集まった小学校 4～6 年生の子どもたちが、徒歩で移動すること。8 日間で歩く行程は約 70km ですが、蘇武岳を初めとした山々を越えたり、沢をさかのぼったりする厳しいものです。

サポートする大人たちと一緒に、自分の足で歩き、食事を作り、テントを設営するなど、自分のことは自分でする体験を通じ、自立心を養います。まだ涼しい朝に出発しても、宿営地に着くのは昼前。熱くなった体を冷やす特効薬は、川へのダイブ。子どもたちが、長い距離を歩き疲れていたのが嘘のように川遊びに興じる光景は、子どもたちの可能性を感じさせてくれます。



2 平成 28 年度評価

- 全ての小学校だけでなく、様々な団体や地域で、子どもたちが川に親しむイベントや活動が行われ、定着している。
- ▲ポイ捨てごみが減らない。
- ▲大雨の後は、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている。





### 3 10年間の評価

○河川の水質浄化につながる「水洗化率」は95%を目標に毎年少しずつ向上している。

○市街地の水路や、城崎の大谿川などでも、ホタルを見かけるようになった。

▲ポイ捨てごみが減らない。

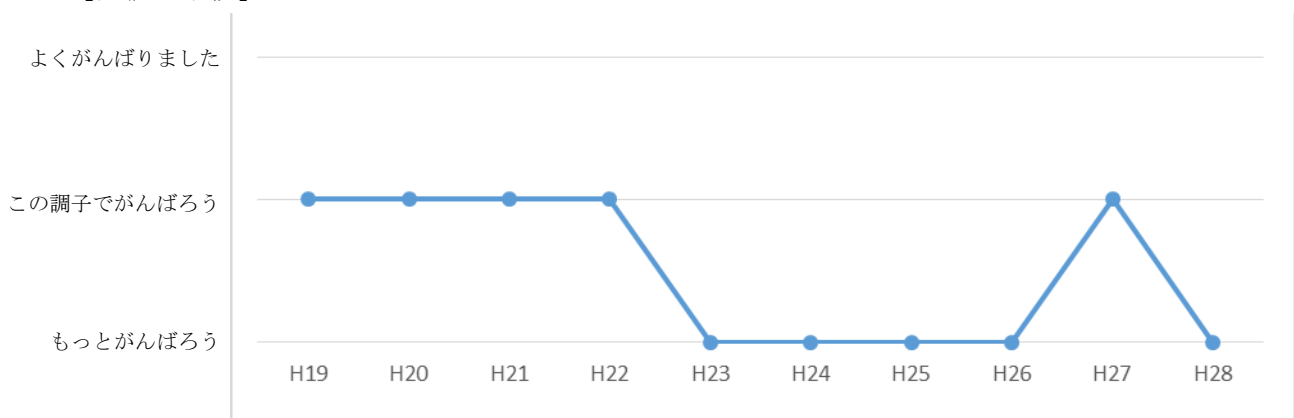
▲河川敷の葦や刈り草などの処理が出来ずに、大雨の後には海に流れてきている。

▲子どもの野生復帰大作戦の参加者数が減ってきている。

#### 【環境審議会からの一言】

川に親しむイベントも開催されているが、スタッフの世代交代が進んでいない所が多く見られる。

#### 【評価の推移】



## 目標像 04 「ごみのない海辺では、

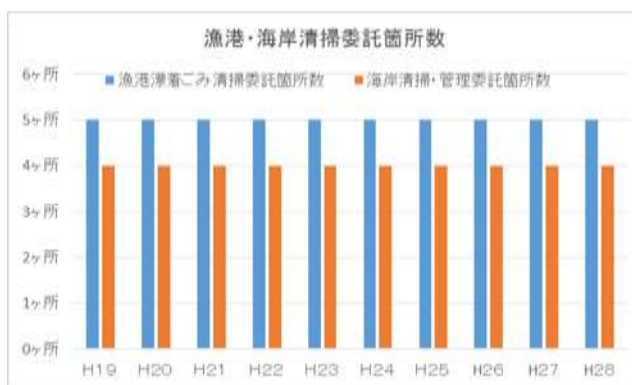
## 子どもたちが『磯遊び』を楽しんでいます」

【具体イメージ】 ポイ捨てや不法投棄のごみや、草刈後の草、稲わらなどが台風や大雨のあとでも海岸に漂着しなくなり／きれいな海岸で、子どもたちが砂遊びや磯遊びを楽しんでいます

【実現するための主な取り組み方向】 方向 02 川や海などの水辺環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

### 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

#### （1）海辺の環境保全



#### （2）学習フィールドとしての利用



※28年度の野外キャンプは、雨天のため中止。

#### 【解説】

- 子どもの野生復帰大作戦、小学校の環境体験事業（3年生）、自然学校（5年生）などでも、海岸を利用した体験が組み込まれています。

#### 【解説】

- 体験メニュー利用者の内、イカダ作り体験、ウミホテル観察、猫崎半島西側観察、地曳網体験、釣り体験の参加者数。

## 海をフィールドとした、子どもの体験を！

★トピックス！

山陰海岸国立公園や山陰海岸ユネスコ世界ジオパークに位置する竹野浜の魅力を体感してもらえる施設として、「竹野子ども体験村」があり、地引き網やカヌー、イカダづくり体験などのメニューが用意されています。



天候に左右されることの多い屋外活動ですが、塩づくりや干物づくり体験など、屋内で出来るメニューもあり、自然学校や臨海学校など学校の校外活動だけでなく、子ども会活動やPTA活動などの、親子でも楽しめる施設になっています。

時期や時間に応じたメニュー構成を組み立てられますので、気軽に相談ください。

### 2 平成 28 年度評価

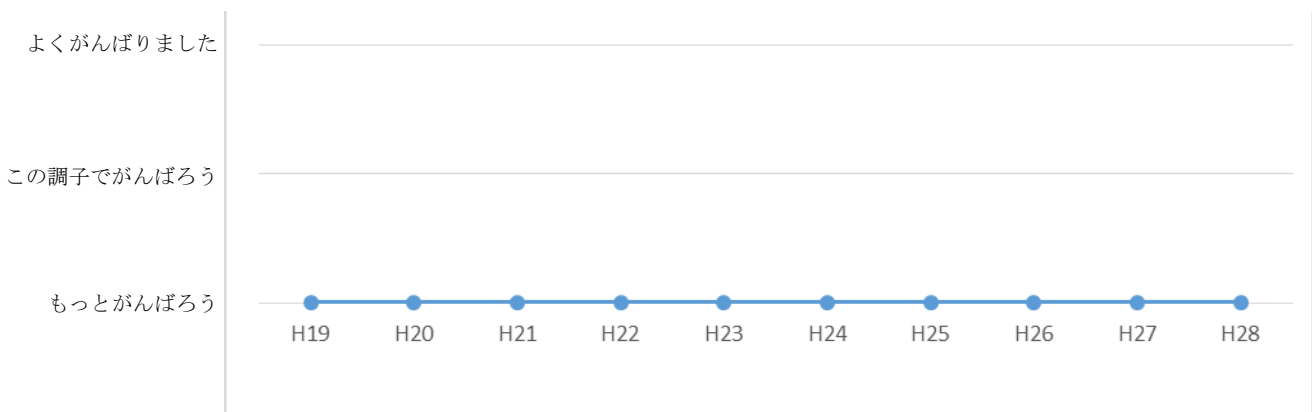
- 海岸を清掃するボランティア活動が、各地で継続的に行われている。
- ▲大雨の後の川から流れてくるゴミだけでなく、季節風や海流により、海外からもたくさんの漂着物が海岸を覆っている。

もっと  
がんばろう

### 3 10 年間の評価

- 子どもの野生復帰大作戦が行われ、子どもたちが海など、自然のことを学ぶ機会が提供されている。
- 海岸を清掃するボランティア活動が行われている。
- 山陰海岸がユネスコ世界ジオパークにも認定され、これまで以上に、多様なアクティビティで利用されるようになってきている。
- 平成 27 年度に「竹野子ども体験村」が開設され、海を利用した体験活動に取り組みやすくなった。
- ▲大雨の後は川から流れてきたごみが海岸を覆っている。
- ▲海外からの漂着物が減らない。

#### 【評価の推移】



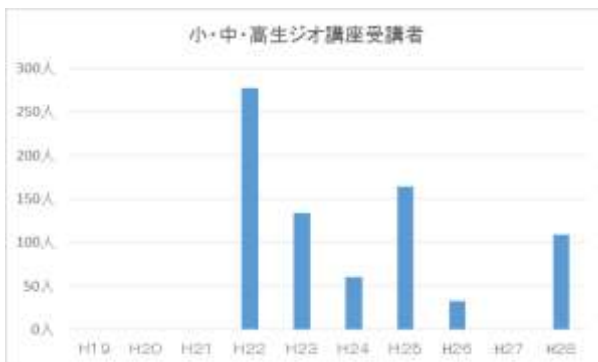
# 目標像 05 「子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます」

【具体イメージ】 おじいちゃんやおばあちゃんが、祭りや伝統行事を語り継いでいます／祭りや伝統行事が地域の暮らしから生まれたものであることを知っています／子どもたちは、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 05 地域の文化や景観を保存し、活用します／方向 07 地域力を高めま  
す／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

## 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

### （1）地域を学ぶ機会



#### 【解説】

- ・「地域の中で受け継がれてきた時間や空間を感じる」「地域に誇りを持つ」など伝統行事やお祭りには大切な意味合いが含まれています。
- ・特に学校教育の中では、“地域を知る”という視点で、かなり意識して地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育に取り組まれていると言えます。

### 「“祭”めぐらーなマップ」を作りました！

豊岡市商工会青年部城崎支部では、地域を元気にすることを目的に、地域の様々なお祭りがいつからどんな目的で行われているのかという事を1年間かけて調べて「城崎温泉“祭”めぐらーなマップ」を製作、全戸配布しました。

マップを見ると、誰もが知っている大きな祭りから、“そんなのがあったの？”という小さな祭りまで、数多くのお祭りがあることが分かるだけでなく、日頃、見かけたことはあるものの、あまり意識していなかった祠などの言い伝えなども紹介されています。お祭りの当日だけでなく、町を散策するだけでも楽しめるマップになっています。

マップを片手に、家族やグループで、地元の魅力を探しに出かけてみませんか。



【豊岡の民俗芸能・その他の伝統行事一覧】 出典：但馬民俗芸能応援隊※資料（H26.2）から転載

※一部情報を変更しています。

※但馬の民俗芸能・伝統行事を後世に守り伝えるため、復活・継承を支援することを目的に平成16年に発足した自主的な住民活動団体。

《民俗芸能》

	名称	伝承地	開催日	備考
1	法花寺万歳	法花寺	1月3日、祝い事、随時	県指定重要無形文化財
2	如布神楽	但東町中山 如布神社	2月3日、10月10日	
3	雷神社の御田植祭	佐野・上佐野・納屋 雷神社	4月29日	市指定無形民俗文化財 追継行事 H19に40年ぶりに復活
4	轟の太鼓踊り	竹野町轟 蓮華寺	8月14日	県指定重要無形民俗文化財 孟蘭盆施餓鬼
5	そうだろ節とヤチャ節	日高町西気地区	8月14日、15日	市指定無形民俗文化財
6	柳まつりおはやし	市内 小田井神社	8月1日、2日	
7	べろべろ節・松坂節	市内	8月14～16日	
8	来日のヤーチャ踊り	城崎町来日	8月14～16日、23日	
9	気比の祭文踊	気比	8月14日、15日	
10	轟大神楽	竹野町轟 森神社	10月第2日曜日	市指定無形民俗文化財
11	日吉太神楽	山王町 日吉神社	10月第2日曜日	
12	井田神社太神楽	日高町鶴岡 城山	10月第2日曜日	
13	盾縫神社太神楽	日高町鶴岡 保木	10月第2日曜日	
14	奥藤太刀振り	但東町奥藤 奥宮神社・須賀神社	10月第2日曜日	
15	赤野太刀振り	但東町中山 赤野神社	10月体育の日の前日	
16	ささ囃し(太鼓踊)	但東町虫生 安牟加神社	10月第2日曜日	農村歌舞伎舞台は県指定有形民俗文化財 市指定無形民俗文化財
17	大名行列槍振り	出石町内町 路上	11月3日	市指定無形民俗文化財
18	奈佐節(六条さん)	奈佐地区	随時	市指定無形民俗文化財
19	気多神社神楽	日高町上ノ郷 気多神社		
20	久畑三番叟	但東町久畑	活動中絶状態	
21	小田井太神楽	小田井町	活動休止状態	
22	宇日神社の三番叟	竹野町竹野 宇日神社	活動中絶状態	衣装・面・鼓・鈴が残っている
23	京成さん	竹野町森本	活動中絶状態	
24	角力取り踊り	但東町平田 春日神社		
25	百合の獅子舞	出石町百合	活動中絶状態	
26	森尾盆踊り	森尾	8月	
27	田結の六斎念仏	田結	活動中絶状態	
28	竹野相撲甚句	竹野町竹野 鷹野神社	活動中絶状態	
29	久斗文楽	日高町久斗	活動中絶状態	

《その他の伝統行事》

	名称	伝承地	開催日	備考
30	宵田十日えびす	日高町宵田 西宮神社	1月10日	
31	田ノ口の賽の神祭	日高町田ノ口 集落内	成人の日	市指定無形民俗文化財

32	但馬天満宮祭	但東町奥矢根 天満宮	2月3日	
33	京口庚申まつり	京口	2月3日	
34	赤石千本杵餅つき	赤石 兵主神社	2月17日	
35	出石初午	出石町内	3月第3土曜前後3日間	
36	松岡の御柱祭	日高町松岡	4月14日	市指定無形民俗文化財
37	赤花鬼子母神大祭	但東町赤花 法華寺	4月第3土、日曜日	
38	赤花大師祭り	但東町赤花	4月21日	
39	温泉祭り 古典行列・稚児行列	城崎町内	4月23日、24日	
40	絹巻神社の奉納相撲	気比 絹巻神社 子ども奉納巫女さん踊り	4月28日	
41	幟まわし	出石町宮内 出石神社	5月5日	市指定無形民俗文化財 端午の節句
42	田結お千度参り	田結 八坂神社	5月23日	
43	鼻かけ地藏祭	城崎町楽々浦 鼻かけ地藏	6月第1日曜日	
44	女代神社の茅の輪くぐり	九日市上町 女代神社	6月30日、12月31日	
45	久斗こども奉納相撲	日高町久斗 石龍神社	7月7日	
46	甚五郎万灯	出石町伊豆	8月24日に近い日曜日	
47	愛宕の火祭り	出石町中村 伊福部神社	8月24日に近い日曜日	
48	伊豆八朔のえんたびきの綱づくり	出石町伊豆	8月31日、9月1日	H9年より35年ぶり復活
49	今森放生会の子ども相撲	今森 八坂神社	9月15日	
50	豊岡のだんじり	市内各地	10月15日に近い土日	秋祭り
51	ジジババオコシ	中郷	10月体育の日の後最初の土曜日	
52	日出神社の千本もちつき	但東町畑山 日出神社	10月体育の日の前日	
53	城崎の秋祭りだんじり	城崎町内 四所神社	10月14日、15日	
54	出石の喧嘩だんじり	出石町大手前広場	10月15日に近い日曜日	
55	出石神社の奉納相撲	出石町宮内 出石神社	10月20日	
56	野の大注連縄替え行事	日高町野 北山神社		H9年11月16日新調、30年ごとに新調
57	江本千本杵餅搗き	江本 佐田彦神社	11月23日	
58	出石神社御年花祭り	出石町宮内 出石神社	11月23日	
59	来日の千本じき	城崎町来日		
60	荒木の地藏盆盛り物作り	出石町荒木		
61	坊岡の万灯会	竹野町坊岡		
62	下塚の万灯祭り	竹野町下塚		
63	三開相撲	大篠岡 三開山城	活動中絶状態	

## 2 平成28年度評価

○地域公民館では、地域の協力のもと、祭りや行事を楽しむことが出来る教室や講座などを実施している。

▲高齢化、少子化により、伝統行事の継続が難しくなっている。

もっとなんぼろう

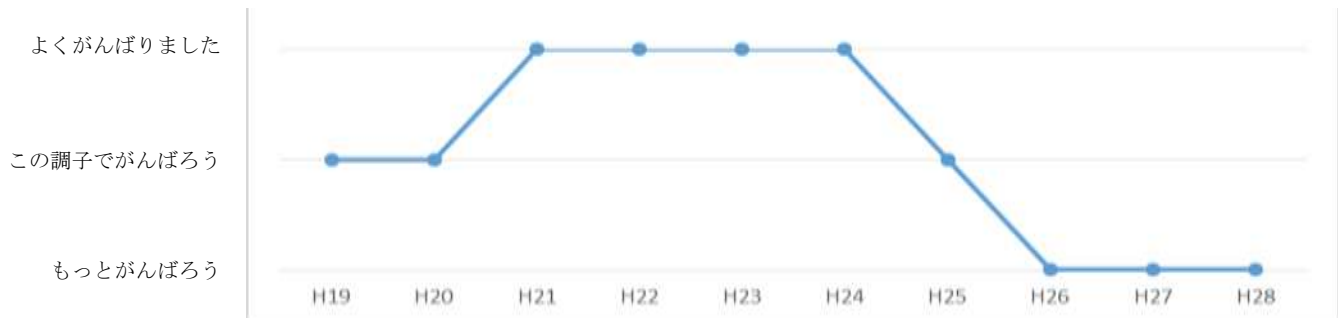
### 3 10年間の評価

○伝統的な祭りや行事が引き継がれている。

○高齢者を対象に実施されていたグラウンドゴルフ大会を、子どもも参加する三世代交流型のものにするなど、工夫しながら行事を継続している地域もある。

▲高齢化、少子化により、活動の継続が難しくなっている伝統行事が増えてきている。

#### 【評価の推移】



# 目標像 06 「コウノトリがすべての中学校区に住んでいます」

【具体イメージ】コウノトリ育む農法や市民が造った湿地が

広がりました／ドジョウ、カエル、バッタなどの生きものがたくさんいます／コウノトリが市内各地に舞い降りています

【実現するための主な取り組み方向】方向 03 農業を将来にわたって維持します／方向 04 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

## 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

### （1）野外的コウノトリの状況（各年度末数値）



【解説】

- ・平成 17 年の試験放鳥から、野外的コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・コウノトリは、すべての中学校区に飛来し、その姿を見ることができます。
- ・ただ、港・竹野（平成 27 年度森本統合）の 2 中学校区には人工巣塔がなく、また但東中学校区、日高中学校区では人工巣塔はあるものの営巣していません。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内のみならず全国各地を訪れています。
- ・野外的コウノトリは、1 年以上所在が確認できない場合は羽数から除いています（平成 26 年度～）。

### （2）コウノトリが生息できる環境の整備



再掲

【解説】

- ・コウノトリは小動物をエサとする大食漢の鳥。増え続けるコウノトリが生息できるよう、市内全域に生きものを増やす取組みを広げようとしています。

平成 28 年度 小学校区別ビオトープ水田設置状況（単位：a）

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	
豊岡地域	豊岡	0.0 (0.0)	日高地域	府中	0.0 (0.0)	
	八条	33.3 (0.0)		八代	28.6 (28.6)	
	田鶴野	47.7 (62.2)		日高	18.1(18.1)	
	三江	61.3 (61.3)		静修	0.0 (0.0)	
	五荘	225.4 (225.4)		三方	57.5 (62.2)	
	新田	0.0 (0.0)		清滝	19.1 (19.1)	
	中筋	14.7 (14.7)		出石地域	弘道	0.0 (0.0)
	奈佐	116.5 (116.5)			福住	0.0 (0.0)
	港東	11.5 (5.2)			寺坂	0.0 (0.0)
	港西	0.0 (0.0)			小坂	0.0 (0.0)
神美	219.3 (219.3)	小野	68.7 (50.9)			
城崎地域	城崎	0.0 (0.0)	但東地域	合橋	316.8 (362.6)	
竹野地域	竹野	20.2 (20.2)		高橋	0.0(0.0)	
	中竹野	0.0 (0.0)		資母	0.0 (22.1)	
	竹野南	0.0 (0.0)				

【解説】

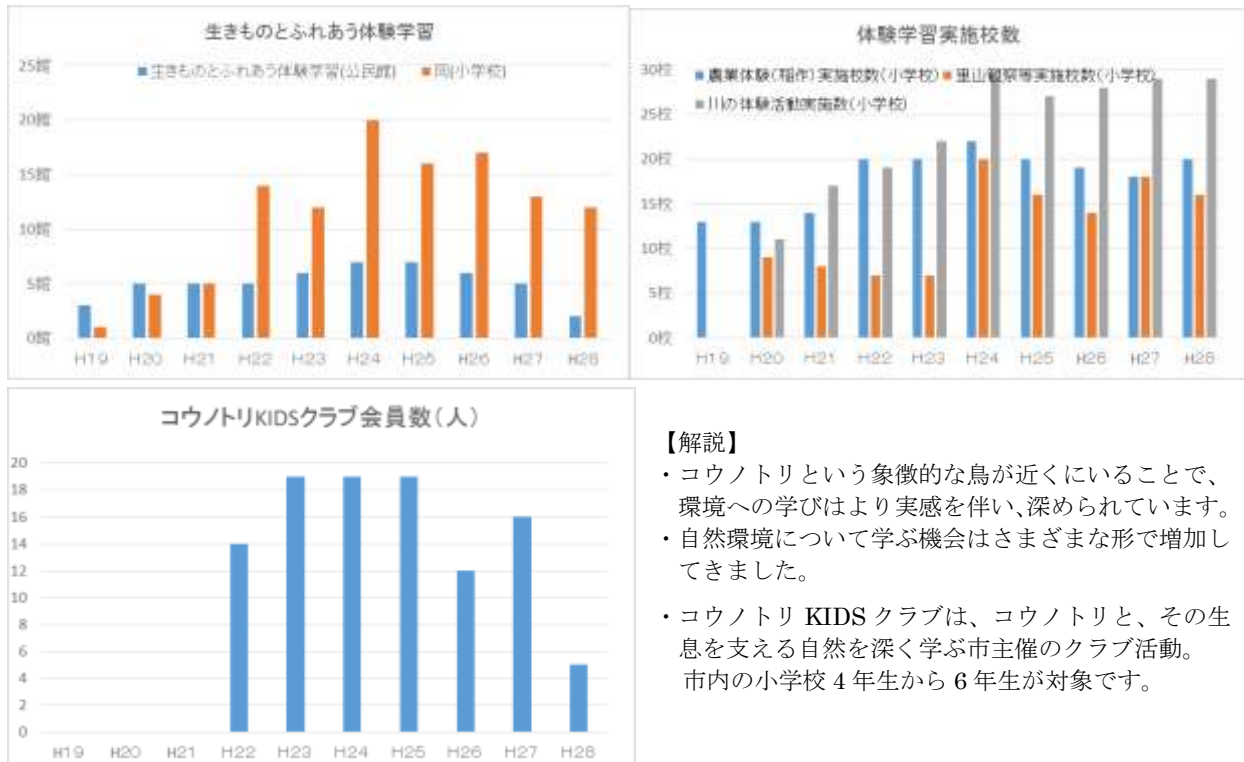
- ・(上) 小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生」活動(ビオトープづくり、外来雑草等の除去など)を支援しています。
- 《平成 28 年度利用団体》  
円山川菜の花の会・コウノトリの郷営農組合、ビオトープ八条・ひろちゃんクラブ・里山倶楽部『廻』・六方川を考える会など。

※( )は平成 27 年度面積

※市内全小学校区を目標に、一定規模のビオトープ水田の設置を進めており、ご協力いただける農家の方にビオトープ（生きものが住む場所）水田としての管理委託を行っています。  
ビオトープ水田では、学校と連携して生きもの調査の授業にも活用しています。



### (3) 学び



#### 【解説】

- ・コウノトリという象徴的な鳥が近くにいることで、環境への学びはより実感を伴い、深められています。
- ・自然環境について学ぶ機会はさまざまな形で増加してきました。
- ・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリと、その生息を支える自然を深く学ぶ市主催のクラブ活動。市内の小学校 4 年生から 6 年生が対象です。

### 祥雲寺巣塔で初の営巣・孵化



コウノトリの郷公園の前に立つ人工巣塔。建ててから長い間利用されずにいましたが、ようやく、平成 28 年、前年まで庄境巣塔（三江小学校敷地内）で営巣を行っていたペアのコウノトリが引っ越してきて、産卵・孵化となりました。

コウノトリの郷公園を訪れば、屋外で子育てしている光景も、すぐ目の前で見える状況が生まれ、多くの方の祝福の声に包まれました。

一方、三江小学校の庄境巣塔でも、早速に違うペアが営巣を行い、産卵・孵化となり、子どもたちの歓声が響きました。

コウノトリは、縄張りを持つ鳥類ですが、十分なえさが確保できれば、共存できることが分かりました。

## 2 平成 28 年度評価

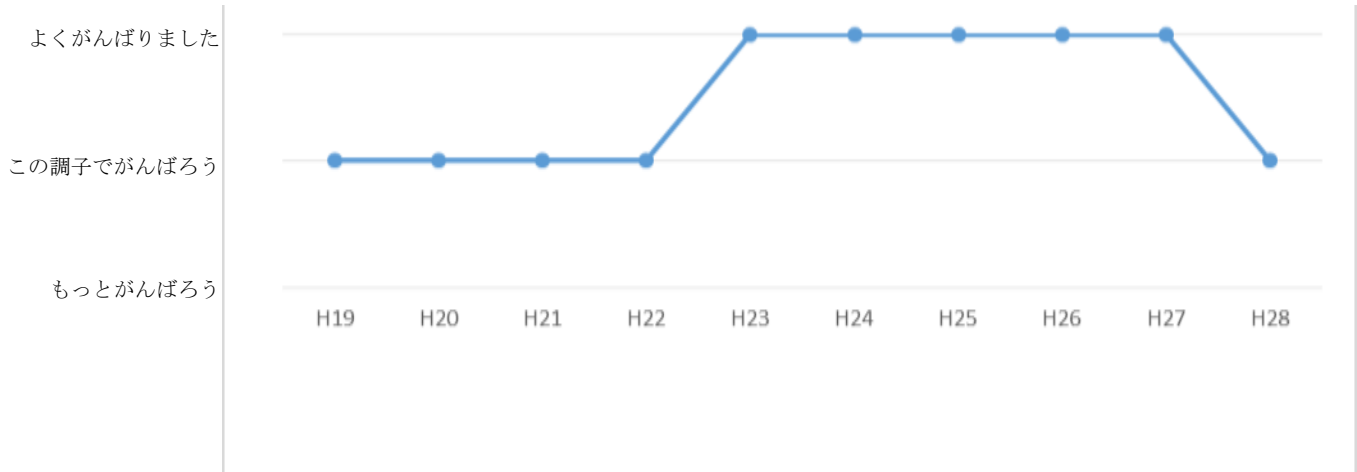
- コウノトリ育む農法・冬期湛水など、生息環境の整備がより一層進んでいる。
- 小さな自然再生活動の助成利用団体が増えている。
- ▲コウノトリ KIDS クラブの会員が減っている。
- ▲地域公民館（現 地域コミュニティセンター）での、生き物と触れ合う体験学習の実施が減っている。

この調子で  
がんばろう

### 3 10年間の評価

- 環境創造型農業の柱の「コウノトリ育む農法」の作付面積は継続的に拡大している。
- 小さな自然再生活動助成金を利用して、えさ場づくりやビオトープづくりが広がってきた。
- コウノトリはすべての中学校区に飛来し、姿を見かけるようになった。

【評価の推移】



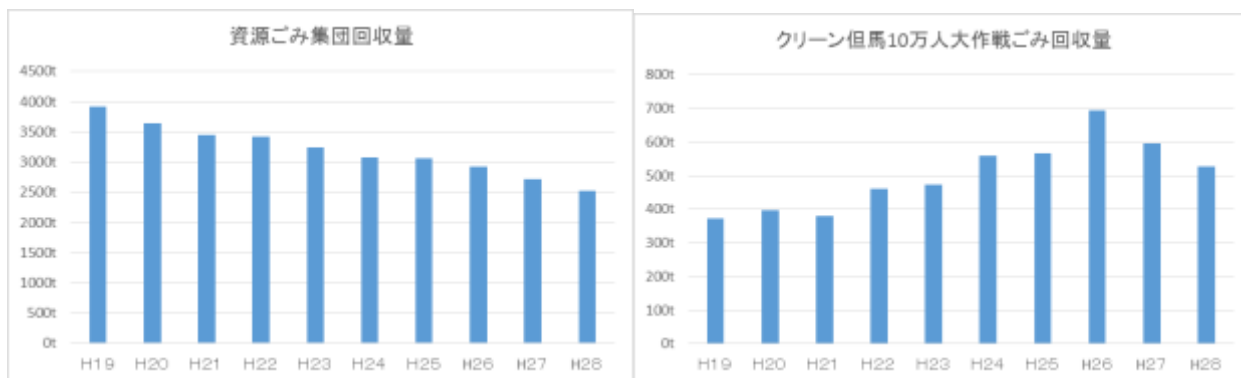
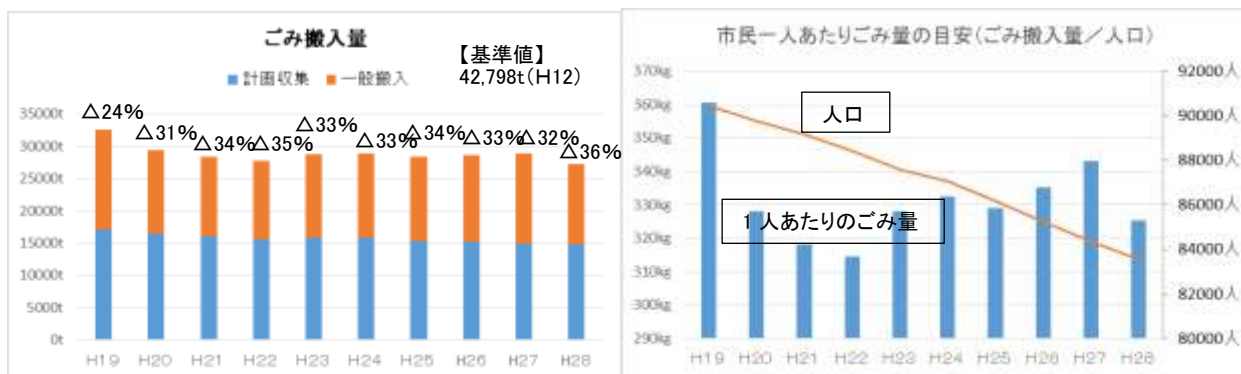
# 目標像 07 「収集されるごみの量は、ピーク時に比べ 25%減りました」

【具体イメージ】 日常生活を見直し、資源の無駄遣いをしなくなりました／生ごみは堆肥などに、使用済みの食用油は燃料として利用されています／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 06 ごみの減量・再資源化を進めます／方向 09 環境意識を高めます

## 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

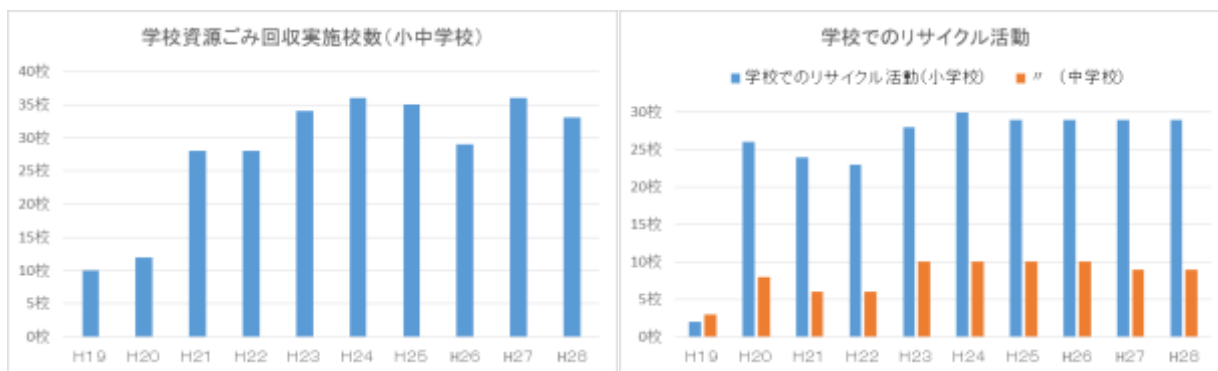
### （1）清掃センターへの搬入状況等



#### 【解説】

- ・ピーク時（平成 12 年度）からの 25%減は既に平成 20 年度に達成していますが、1 人あたりのごみ排出量は、人口減少に対し世帯数は増加していることや、各商店での過包装などにより、平成 22 年度を底値に微増傾向にありましたが、平成 28 年度には減少に転じました。

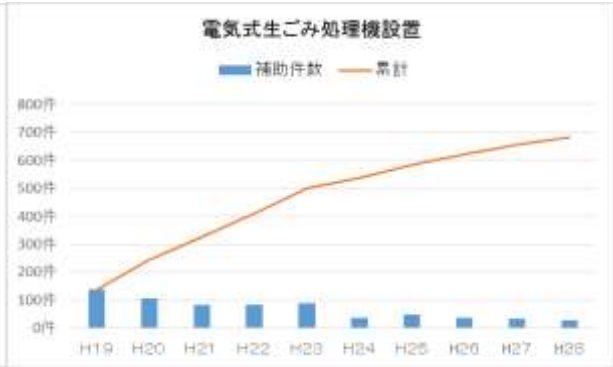
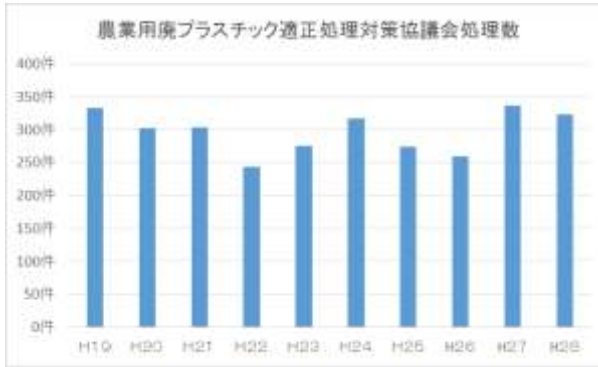
### （2）学校での取り組み



#### 【解説】

- ・(左)小中学校では、プラタブやインクカートリッジなどの資源ごみ回収に取り組んでいます。
- ・(右)PTAや地域と連携した資源回収活動も定着しています。市からの補助金等を含め、学校活動の資金源であることも大きなモチベーションになっているものと考えられます。

### (3) ごみ減量に向けた多様な取り組み



#### 【解説】

- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、毎年持ち寄って集団処理が行われています。
- ・空き缶や空きペットボトルの容器回収機は老朽化や管理が困難になったことにより、設置されなくなりましたが、プラスチックトレイやペットボトルなどの回収BOXの設置が、スーパーなどの店頭で設置され、回収が図られています。

### 「クリーンパーク北但」稼働

★トピックス!

北但行政事務組合(構成市町：豊岡市、香美町、新温泉町)が、森本・坊岡区(竹野地域)に整備を進めてきた北但ごみ処理施設「クリーンパーク北但」が、ついに4月からごみの受け入れを開始し、8月に竣工式が行われました。

この施設は、クリーンセンター(高効率なごみ発電もできる施設)とリサイクルセンターを併設する環境に優しいごみ処理施設で、最大 4,800 世帯分の発電能力を有するとともに、ゴミ区分を従来の6分別から9分別に変更して、これまで以上にリサイクルを進めるなど、環境に配慮した施設となっています。

また、施設内には環境学習コーナーや里山学習コーナーが常設されたり、屋外にも遊歩道やビオトープが設置され、環境について学べる施設として、今後大いに利用が期待されます。



## 2 平成 28 年度評価

○一人当たりのごみの量は、前年度比で5%減少している。

▲集団回収の回収量は減っている。

この調子で  
がんばろう

### 3 10年間の評価

○平成28年度に搬入されたごみの量は、平成12年度に比べ36%減っている。

○商業施設においては、プラ容器やペットボトルの回収BOXの設置が進んでいる。

○ゴミの分別区分が、6分別から9分別に増え、リサイクル化が進んでいる。

▲商業施設などに置かれていた、空き缶や空きペットボトルの容器回収機は老朽化や管理が困難になったため設置されなくなった。

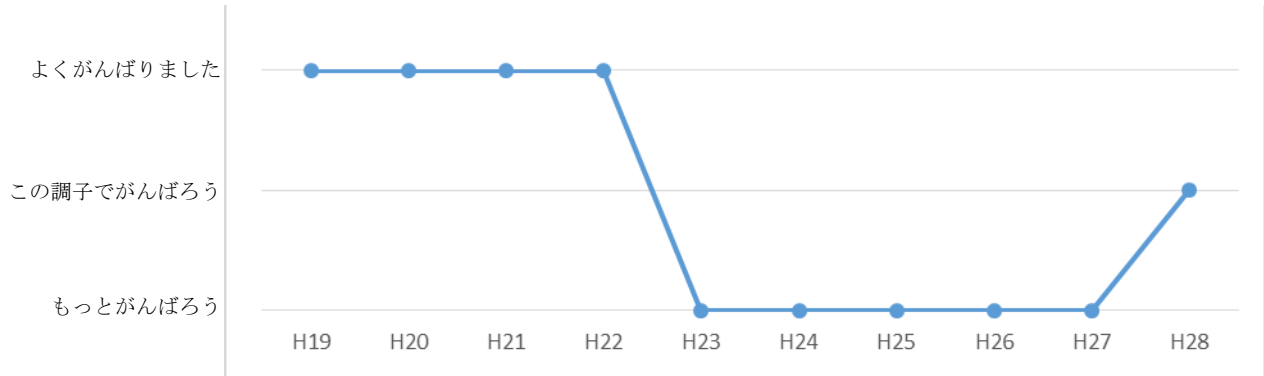
▲資源ごみ集団回収量は減少傾向が続いている。

▲クリーン但馬10万人大作戦によるごみ回収量は増えていたが、平成26年をピークに減少している。

#### 【環境審議会からの一言】

高齢化が進み、地域で資源ごみ回収が行われても、出すことが難しくなっている世帯が増えてきている。

#### 【評価の推移】



## 目標像 08 「子どもが安心して道草をしながら帰ります」

【具体イメージ】 学校からの帰り道で花飾りを作ったり、魚とり、虫取りをしています／子どもが自然のことを学び、生きものに興味を持っています／通学途中に、散歩する人、商売で行き来する人、農作業をする人がたくさんいて、無意識に子どもたちの見守りが行われています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 04 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します  
／ 方向 07 地域力を高めます

### 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

#### （1）学校登下校時の見守り

##### 【解説】

- ・子どもたちの安全な通学を確保するため、各小学校に設置された「まちづくり防犯グループ」を中心に、全ての小学校区で、登校時の見守りが行われています。
- ・ただ、見守りの使命はあくまで「安全な登下校」であり、「安心して道草をしながら帰る」という目標とは相容れない部分もあります。

#### （2）道草環境の保全



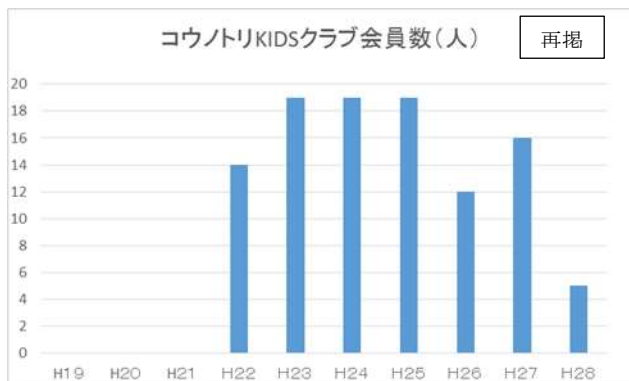
##### 【解説】

- ・これらは道草へ誘うことを目的とした取り組みではありませんが、通学路が花にあふれ、生きものにあふれ、いつも畑に人影があるような場所なら、地域の大人と子どもが顔見知りになり、ちょっと寄り道しても安心できます。

### (3) 地域の自然環境への興味



再掲



再掲

#### 【解説】

- ・コウノトリ文化館でイベントとして開催されている「田んぼの学校」の地域出張バージョンが、「出張！田んぼの学校」です。地域に講師が赴き、子どもたちと生き物調査をします。

### 地域防災訓練で、中学生も大活躍



8月最後の日曜日に、市民総参加訓練・震災総合防災訓練が開催されました。

日高地区公民館においても、地域コミュニティ組織準備会と共催で、日高防災公園まゆの里において、校区一斉の地域防災訓練を実施されました。防災訓練には、20名を超える中学生や高校生もボランティアとして参加して、「ぼうさい、ジャンケンポン！」の歌に合わせて体操したり、展示や炊き出しなどの各ブースに分かれて、役員の方々と一緒に頑張る姿に、参加された方々も楽しそうにされていました。

実際に、災害が起きた時には、仕事で帰れない大人も多く、中学生や高校生がイベントなどを通じて、地域の方々と知り合っておけば、大変心強い存在になると思われれます。



## 2 平成 28 年度評価

○登下校時の見守り活動が各小学校区で定着し、世代を超えた交流を育んでいる。

▲出張！田んぼの学校の実施回数が減っている。

この調子で  
がんばろう

### 3 10年間の評価

- 小学校での「環境体験学習」が定着している。
- 公民館による「生きものとふれあう体験学習」や「出張！田んぼの学校」など、地域で世代間交流の事業が行われ、子どもたちが自然のことを学ぶ機会が多様に提供されている。
- 習い事やスポーツ活動、放課後児童クラブなど、子どもたちが道草をしながら帰る環境でなくなっているが、登下校する子どもたちを見守る活動が各小学校区で定着している。
- 平成 21 年度から「出張！田んぼの学校」がスタートし、地域においても、田んぼや川で子どもたちが生きものと触れ合う機会が増えた。
- ▲子どもの野生復帰やコウノトリ K I D S クラブの活動は始まったが、参加者数が伸び悩んでいる。

#### 【環境審議会からの一言】

「道草をしながら帰ります」という目標像はイメージとしてはよかったが、評価の難しい目標だった。子どもたちが日常的に身近な自然に触れる機会が増えているとは言えない。

#### 【評価の推移】



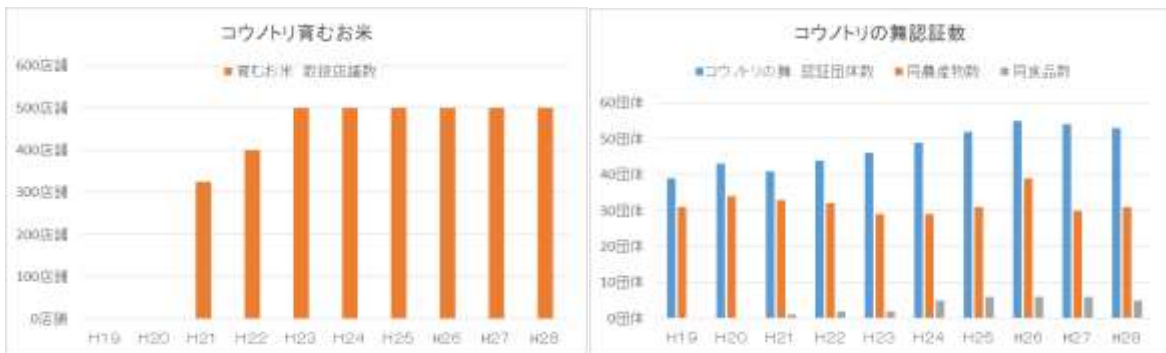


# 目標像 09 「たくさんの豊岡ブランドが生まれ、 市民みんなが使っています」

【具体イメージ】 豊岡で作られた安全・安心な農産物、かばん、ちりめんなどの商品が市内外で高く評価されています／市民が豊岡産品を購入し、日々の暮らしを楽しんでいます／市外の消費者は、豊岡の人が選ぶ物を購入することに安心を感じています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます／方向 11 地産地消を進めます／方向 12 環境と経済の共鳴を進めます

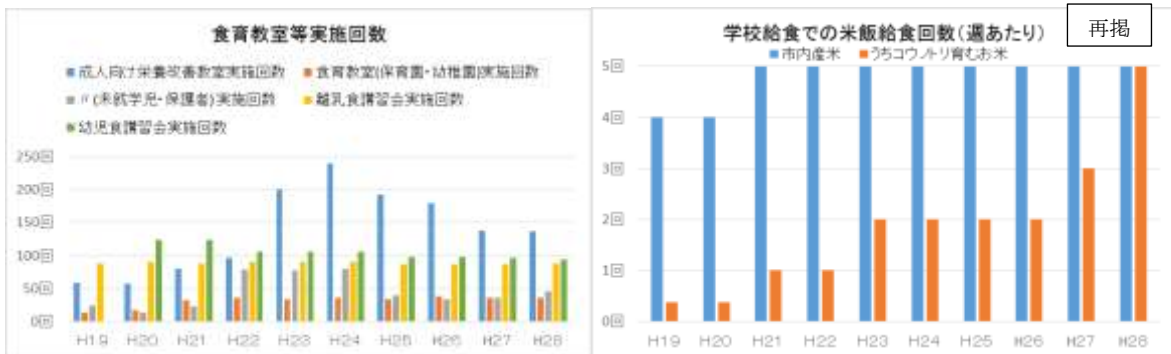
## 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度） （1）豊岡ブランドの育成



### 【解説】

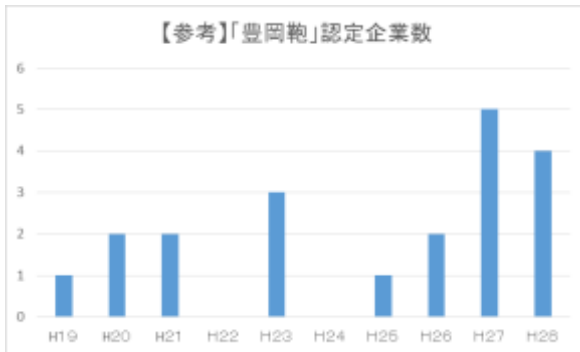
- ・豊岡靴や出石皿そば、但東の卵かけごはんなど「豊岡ブランド」はたくさんありますが、ここでは経年変化の分かる農産物を紹介しています。
- ・「物語のある商品」として、トップセールスや地道な販売促進の努力を続け、コウノトリ育むお米は東京や沖縄の量販店など、全国約 500 店舗で扱われ（さらに拡がりをみせています）、アメリカやシンガポールなどにも、少しずつですが輸出が始まっています。

## （2）地産地消の推進



### 【解説】

- ・外向きに「豊岡ブランド」と呼ばれるものだけでなく、地元で採れたものを食べ、地元で作られたものを使う「地産地消」を広げようとしています。



【解説】

- ・「津居山港機船底曳網組合」では、毎年市内の小学校にセコガニを提供し、給食時に児童にカニの食べ方を教える取り組みを行っています。

ラムサール条約湿地の恵み。神水(カンズイ)わかめ



円山川下流に位置する田結地区で、例年、5月下旬に「わかめ祭り」が開催されます。

円山川や田結湿地から運ばれてくる豊かな栄養分に育まれた神水わかめは、栄養価が高いのはもちろん、歯ごたえもよく美味しいと好評で毎年多くの人で賑わいを見せます。

ラムサール条約では、湿地の「賢明な利用」が一つの大きな柱です。湿地を保全することで美味しいわかめが採れ、多くの人で賑わい、わかめも売れ、また湿地保全につながっていく。湿地の賢明な利用の好事例の一つであり、他の地域にも広がっていくことが期待されます。



2 平成 28 年度評価

- ニューヨークでも「コウノトリ育むお米」の販売促進が行われ、レストランでの食材として継続的に取り入れられている。
- コウノトリ育むお米を販売している小売店が増えている。
- 魚の漁獲量はわずかに増えている。
- ▲コウノトリの舞の認証商品数が減っている。



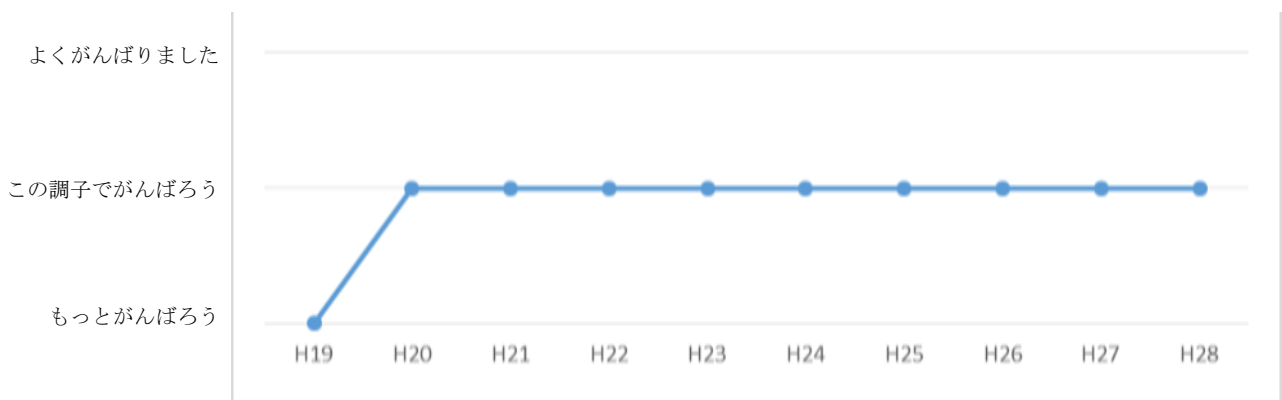
### 3 10年間の評価

- 首都圏や京阪神、さらには海外において、「コウノトリ育むお米」の販売活動が行われるようになった。
- 豊岡鮎の認定を希望する事業者が増えている。
- ▲津居山かきの漁獲量が減っている。
- ▲コウノトリの舞の認証団体数は増えているが、商品数は伸び悩んでいる。

#### 【環境審議会からの一言】

漁業者の高齢化や後継者不足が深刻化している。

#### 【評価の推移】



# 目標像 10 「市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます」

【具体イメージ】 地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がりました／冷暖房や電気機器のスイッチをこまめに切るようになりました／太陽電池の設置やアイドリングストップが進んでいます

【実現するための主な取り組み方向】 方向 09 環境意識を高めます／方向 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります

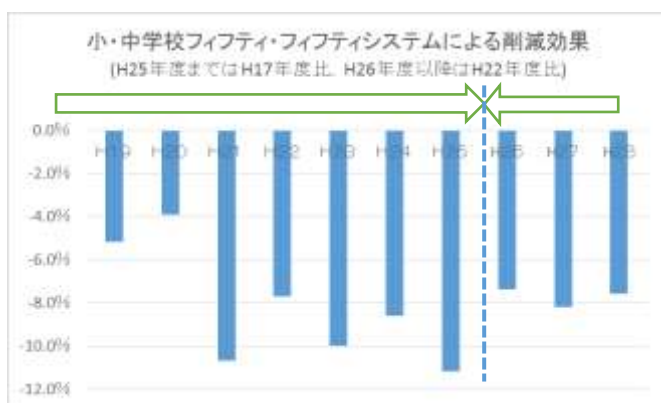
## 1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

### （1）市民が楽しく



#### 【解説】

・「市民エコポイント制度」と「健康ポイント制度」を統合した「健康・環境ポイント制度」が、平成27年4月から新たにスタートしました。これまで健康一辺倒だった方の興味が環境へも向けられるなど、利用者の相乗効果の広がりが期待されています。



#### 【解説】

・環境教育の一環として、平成18年4月から市内の全小・中学校に「フィフティ・フィフティシステム」を導入しています。これは、光熱費（電気代）の節減分の1/2を学校に還元することで省エネを促すものです。  
 ・学校への還元額は年総額300万円以上。各学校で希望する物品が購入されています。

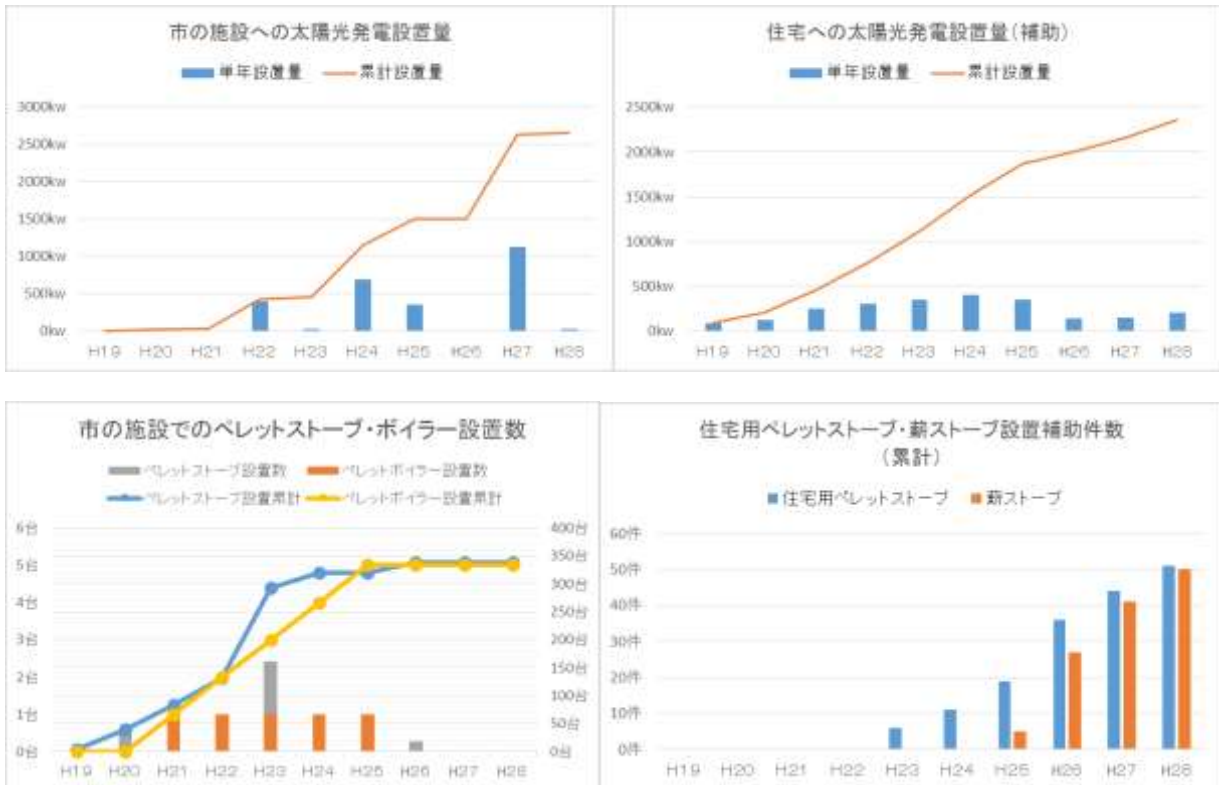
### （2）企業の経済活動の中で



#### 【解説】

・環境と経済の共鳴を促進するための補助事業は、「環境経済事業推進補助（平成18～21年）」「技術革新等支援補助（平成22～24年）」「ものづくり企業等支援補助（平成25年～）」と変遷しながら継続しています。  
 ・平成25年度は補助件数・金額とも大幅にダウンしましたが、それは国に同様の補助制度ができたためです。全国に「環境経済」に対する共鳴の輪が広がっています。

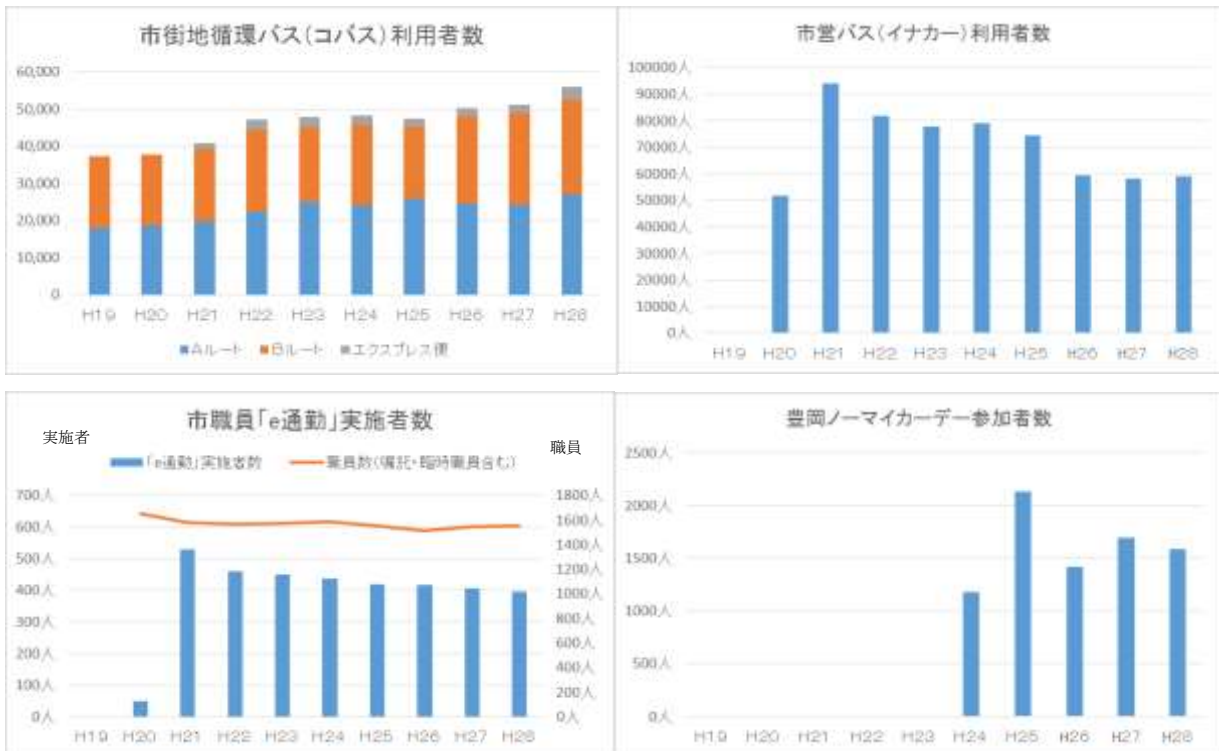
### (3) 自然エネルギーの利用



#### 【解説】

- 市は自然エネルギーの利用を推進しています。ペレットストーブや薪ストーブを使用することは、CO2 排出削減にもなり、山の資源の活用に寄与します。

### (4) 公共交通の利用



## バスに乗って、グラウンドゴルフ大会に！

★トピックス★

豊岡市が進める「ノーマイカーデー」のイベントの一環として、全但バス等の主催によるグラウンドゴルフ大会が1月に開催されました。参加の条件は、全但バスを利用して会場になる全但バス但馬ドームへ来ること。

いつもなら、1人、あるいは数人で車に相乗りしてグラウンドゴルフ大会へ参加することが多い中、この日は神鍋 200 円バスに乗って全但バス但馬ドームへ。

たくさんの人数が乗れるバスを利用することで、車中では遠足に参加した子どものように、楽しく賑やかな会話が弾んでいました。

大会には約 180 人が参加し、団体戦や個人戦の結果に一喜一憂する光景も見られ、楽しみながら CO<sub>2</sub>削減に大きく寄与しました。



## 2 平成 28 年度評価

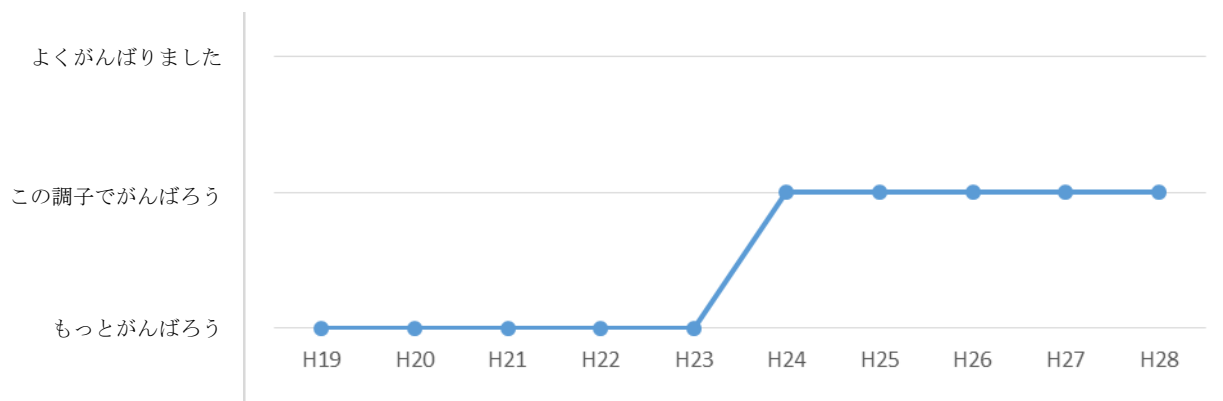
- リニューアルしたエコポイント制度の取組み者が、昨年度より増えている。
- ものづくり企業等支援事業の利用件数が増えている。

この調子で  
がんばろう

## 3 10 年間の評価

- 太陽光発電装置の導入が進んでいる。
- 木質バイオマスの活用を図るために始めた個人用ペレットストーブ購入費補助制度が、薪ストーブや事業用にも拡充し、導入を促進している。
- 市街地循環バス利用者が増えている。
- 健康ポイントと市民エコポイント制度が統合され、健康に関心のある人、環境に関心のある人、それぞれが環境や健康についても取組むきっかけとなった。
- ▲市職員による「e 通勤」の取組みが継続されているが、実施者が減少傾向にある。
- ▲市営バス（イナカー）の利用者数が、平成 21 年度をピークに低迷している。

### 【評価の推移】



## 第3部 豊岡市の環境の状況

### ■環境の状況について

豊岡市の環境に関するさまざまなデータとその経年変化を整理しています。

# 1. 自然

## (1) 気象の状況

年次	気温 (°C)			湿度 (%)	降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	霧日数 (日)	猛暑日 (日)
	平均	最高極	最低極					
平成 12 年	14.5	39.3	-3.7	79	1,955	48	88	23
13 年	14.3	36.8	-6	78	2,451	52	83	16
14 年	14.6	37.9	-3.3	76	2,047	46	77	22
15 年	14.3	36.2	-5.5	77	1,829	28	71	7
16 年	15.4	37.2	-4.7	76	2,510	46	60	13
17 年	14.5	37.2	-5.9	78	2,114	45	59	10
18 年	14.5	36.8	-6.3	78	2,083	79	78	13
19 年	15.0	38.6	-4.2	76	1,850	18	未測定	14
20 年	14.6	38.4	-2.3	77	2,020	32	84	18
21 年	14.6	36.3	-5.2	77	2,136	43	94	3
22 年	15.2	38.0	-3.7	76	1,993	21	62	38
23 年	14.5	37.7	-5.9	78	2,424	75	60	22
24 年	14.3	37.7	-5.8	79	2,252	100	67	32
25 年	14.9	37.9	-4.4	77	1,997	33	58	25
26 年	14.4	38.7	-3.4	80	2,002	30	71	8
27 年	14.9	37.6	-2.8	81	2,018	42	61	11
28 年	15.4	38.2	-6.9	81	2,073	20	64	10

資料：気象庁

## (2) 大気の状態

### ① 県一般環境大気測定局における測定結果：年平均値（市役所測定局）

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
一酸化窒素 (ppm)	0.003	0.004	0.005	0.004	0.004	0.001	0.003	0.002	0.003	0.001	0.001	0.001	0.001
二酸化窒素 (ppm)	0.009	0.009	0.012	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006	0.007	0.007	0.006	0.005	0.004
二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
浮遊粒子物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.019	0.019	0.020	0.019	0.017	0.018	0.015	0.022	0.018	0.020	0.022	0.019	0.019

資料：兵庫県環境白書

### ② 県自動車排出ガス測定局における測定結果：年平均値（国道 312 号小尾崎測定局）

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
一酸化窒素 (ppm)	0.010	0.008	0.007	0.006	0.006	0.005	0.004	0.003	0.005	0.004	0.003	0.003	0.003
二酸化窒素 (ppm)	0.017	0.016	0.015	0.013	0.012	0.011	0.009	0.008	0.009	0.008	0.005	0.007	0.006
一酸化炭素 (ppm)	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	(0.3)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2

※ ( ) は、有効測定時間数 (6000 時間/年) に達していない値を示す。

資料：兵庫県環境白書



(3) 河川の水質 (BOD (生物化学的酸素要求量) 75%値) の推移 (単位: mg/l)

河川	観測地点 (環境基準)	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
円山川上流	上ノ郷 (2.0mg/l)	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.8	0.6	0.7	0.6
円山川下流	立野大橋 (3.0mg/l)	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.8	0.8	0.8	1.1	1.2
竹野川	竹野新橋 (2.0mg/l)	0.0	0.5	0.5	0.0	0.6	0.0	0.5	0.0	0.5	0.7

資料: 兵庫県環境白書

## 2. コウノトリ

### (1) コウノトリの野生復帰の歩み

年 代	コウノトリの野生復帰の歩み
昭和30年(1955年)	コウノトリ保護協賛会が発足し、官民一体となった保護運動を展開。
昭和31年(1956年)	コウノトリは20羽に減少。コウノトリが国特別天然記念物の指定を受ける。
昭和37年(1962年)	兵庫県が、国の特別天然記念物コウノトリの管理団体として指定を受ける。
昭和38年(1963年)	コウノトリは11羽に減少。巣から卵を取り、人工孵化を試みるが成功せず、野生個体を捕獲し、人工飼育に踏み切ることを決定。
昭和39年(1964年)	コウノトリ飼育場(現保護増殖センター)の建設に着手。
昭和40年(1965年)	野上地区にコウノトリ飼育場が完成。 一つがいを保護し、人工飼育スタート。
昭和46年(1971年)	野生最後の1羽が豊岡市内で保護されたが死亡。これにより日本国内の野生コウノトリが消滅。
昭和60年(1985年)	ロシア(ハバロフスク地方)から野生の幼鳥6羽を受贈。
昭和61年(1986年)	豊岡盆地に生息し、飼育場で人工飼育されていた最後のコウノトリが死亡。
平成元年(1989年)	人工飼育で初の繁殖に成功。以後、毎年繁殖に成功。
平成4年(1992年)	野生復帰構想スタート。
平成6年(1994年)	飼育下第3世代が誕生。 「第1回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催。
平成9年(1997年)	県立コウノトリの郷公園の整備に着手。
平成10年(1998年)	増殖事業は軌道に乗り、飼育下のコウノトリは50羽を超える。
平成11年(1999年)	県立コウノトリの郷公園が開園。
平成12年(2000年)	市立コウノトリ文化館が開館。 「第2回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催。
平成13年(2001年)	飼育コウノトリは80羽を超える。
平成14年(2002年)	飼育コウノトリが100羽を超える。 野生のコウノトリ(ハチゴロウ)が飛来し定着する。
平成15年(2003年)	県が「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定。 コウノトリ野生復帰推進連絡協議会が設置される。 市が安全・安心な農産物ブランド「コウノトリの舞」を商標登録。 「コウノトリと共生する水田づくり」を始める。
平成16年(2004年)	「コウノトリファンクラブ」が発足する。
平成17年(2005年)	9月24日コウノトリ5羽を自然放鳥。 「第3回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催。

平成18年(2006年)	野生のコウノトリ(エヒメ)が飛来し定着する。 放鳥拠点(祥雲寺)から2羽が巣立ち(段階的放鳥)。 飼育コウノトリ3羽を自然放鳥、放鳥拠点(河谷)のコウノトリ4羽を段階放鳥。
平成19年(2007年)	5月20日国内の野外で43年ぶりにヒナ1羽が誕生し、7月31日46年ぶりに巣立つ。 飼育コウノトリ3羽を自然放鳥(楽々浦)、放鳥拠点(山本)の2羽を放鳥。
平成20年(2008年)	5月20日を「生きもの共生の日」と定める。 野外で8羽のヒナが巣立つ。 放鳥拠点(三木)から2羽が巣立ち(段階的放鳥)
平成21年(2009年)	市立ハチゴロウの戸島湿地オープン。 野外で9羽のヒナが巣立つ。 放鳥拠点(唐川)の2羽を放鳥
平成22年(2010年)	第4回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催 野外で9羽のヒナが巣立つ。
平成23年(2011年)	兵庫県教育委員会とコウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」を発表。 福井県越前市に1ペア(2羽)を移送。 野外で9羽のヒナが巣立つ。
平成24年(2012年)	7月3日「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録。 放鳥コウノトリに3世誕生。 野外で14羽のヒナが巣立つ。
平成25年(2013年)	豊岡市立三江小学校の人工巣塔から、初の巣立ち。 野外で22羽のヒナが巣立つ。
平成26年(2014年)	豊岡生まれのコウノトリが初めて国境を越え、韓国金海市に飛来。 第5回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催(コウノトリ野生復帰の取り組みの特長や課題をまとめた報告書を発表)。 野外で16羽のヒナが巣立つ。
平成27年(2015年)	7月23日千葉県野田市で3羽のコウノトリを放鳥(兵庫県外で初の放鳥)。 9月3日韓国忠清南道禮山郡で、韓国初となる放鳥(8羽を放鳥)。 10月3日福井県越前市白山区で2羽のコウノトリを放鳥。 野外で13羽のヒナが巣立つ。
平成28年(2016年)	韓国で放鳥されたコウノトリからヒナが誕生し、巣立つ。

(2) コウノトリの羽数 (H29.3.31 現在)

区 分	生息数
兵庫県立コウノトリの郷公園の飼育個体	95羽
野外で生息する個体(ヒナを除く)	89羽
飛来した野生個体	1羽
合 計	184羽

資料：県立コウノトリの郷公園

### 3. 人口、世帯数、就業者数の推移

(1) 世帯及び人口の推移 (各年10月1日現在)

年次	面積 (k m <sup>2</sup> )	世帯数 (戸)	人口 (人)			1世帯当 りの人員	年齢別人口 (人)		
			総数	男	女		14歳以下	15~64歳	65歳以上
◎H7	697.66	28,131	93,859	44,974	48,885	3.34	16,072	58,557	19,230
◎H12	697.66	29,181	92,752	44,637	48,115	3.18	14,508	56,489	21,755
◎H17	697.66	29,617	89,208	42,695	46,513	3.01	12,966	53,177	23,059
◎H22	697.66	29,741	85,592	40,791	44,801	2.88	11,893	49,523	24,144
H23	697.66	29,865	84,876	40,478	44,398	2.84	-	-	-
H24	697.66	29,800	84,116	40,167	43,949	2.82	-	-	-
H25	697.66	29,856	83,338	39,808	43,530	2.79	-	-	-
H26	697.66	29,983	82,462	39,405	43,057	2.75	-	-	-
◎H27	697.55	30,152	82,269	39,497	42,772	2.73	公表未	公表未	公表未
H28	697.55	30,278	81,391	39,071	42,320	2.69	-	-	-

(注) 本表は5年毎の国勢調査結果及び兵庫県推計人口結果 ◎は国勢調査結果 (H27は速報値)

(2) 産業別就業者数 (単位: 人)

区分	H2	H7	H12	H17	H22	H27
第1次	5,453	4,823	3,581	3,544	2,873	公表未
第2次	17,921	17,129	15,485	13,485	11,196	公表未
第3次	26,217	27,834	28,179	28,088	26,743	公表未
分類不能	48	20	143	73	864	公表未
計	49,639	49,806	47,388	45,190	41,676	公表未

資料: 国勢調査

### 4. 森林面積

(1) 樹種別森林面積 (単位: ha)

区分	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
針葉樹	26,008	26,025	26,070	26,076	26,076	26,077	26,077	26,062	26,092	26,091
広葉樹	27,409	27,400	27,351	27,345	27,345	27,336	27,336	27,306	27,297	27,297
その他	1,120	1,115	1,116	1,116	1,116	1,117	1,117	1,142	1,148	1,149
計	54,537	54,540	54,537	54,536	54,536	54,530	54,530	54,510	54,537	54,537

注: 端数処理の関係で合計数値が合わない

資料: 兵庫県森林GISシステム

(2) H29. 3. 31 現在所有者別森林面積

区分	針葉樹	広葉樹	その他	総数
公有林	1,747	1,552	61	3,360
私有林	24,345	25,745	1,087	51,177
共有林	0	0	0	0
総数	26,092	27,297	1,148	54,537

注: 端数処理の関係で合計数値が合わない

(3) 林業就業者数

平成17年	平成22年	平成27年
26人	101人	68人

資料: 国勢調査 (H22から集計方法変更。農家林家を含む)

(4) 市内の除間伐の面積

年度	面積 (ha)
H22	723
H23	890
H24	515
H25	519
H26	498
H27	401
H28	300

(注) 市、公社、民間等の行造林すべてを含む 資料：北但東部森林組合

5. 農業

(1) 農家数の推移

(単位：戸)

区分	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
専業	585	647	617	468	546	570	472
1種兼業	855	562	648	361	296	304	303
2種兼業	6,930	6,251	5,496	3,703	2,936	2,270	1,768
自給的農家				1,732	2,021	2,088	1,912
合計	8,370	7,460	6,761	6,264	5,799	5,232	4,455

※平成12年から自給的農家の専兼業別調査の簡素化

資料：農林業センサス

(2) 経営耕地のある農家数と経営耕地面積 (平成28年)

(単位 農家数：戸、面積：ha)

区分	総数		耕作田		耕作畑		樹園地		休耕地	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
H27	2,593	3,468	2,518	2,730	1,605	201	151	26	595	118
H22	3,181	3,651	3,098	2,719	2,227	215	212	30	1,054	208
H17	-	3,880	3,713	2,759	2,678	268	251	42	1,280	218

資料：農林業センサス

6. 漁業

(1) 漁家数、漁獲量、漁獲高の推移

年次	漁家数 (戸)			漁獲量 (t)			漁獲高 (万円)		
	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜
H18	221	124	97	2,941	2,324	617	191,088	177,582	13,506
H19	210	119	91	2,706	2,285	421	190,926	173,778	17,148
H20	206	115	91	2,771	2,356	415	192,380	175,209	17,171
H21	205	114	91	2,248	1,731	517	168,056	153,399	14,657
H22	198	112	86	2,286	1,939	347	160,490	147,231	13,259
H23	183	108	75	2,310	2,117	193	162,615	152,825	9,790
H24	179	108	71	2,375	2,177	198	164,312	154,493	9,819
H25	167	105	62	2,506	1,987	519	163,244	153,028	10,216
H26	160	101	59	2,425	2,158	267	171,377	159,616	11,761
H27	154	97	57	2,484	2,101	383	189,073	178,505	10,568
H28	145	89	56	2,534	2,295	239	183,870	173,344	10,526

資料：但馬漁協 津居山支所、竹野支所

## 7. ごみ

(1) ごみ収集量 (単位：t) [参考] 1人あたりの収集量 (単位：人/kg)

年度	計	計画収集	一般搬入	人口	1人あたり
H19	32,610	17,080	15,530	90,443	360.6
H20	29,448	16,441	13,007	89,762	328.1
H21	28,374	16,059	12,315	89,169	318.2
H22	27,796	15,612	12,184	88,407	314.4
H23	28,736	15,872	12,864	87,585	328.1
H24	28,941	15,767	13,174	87,040	332.5
H25	28,362	15,353	13,009	86,173	329.1
H26	28,568	15,130	13,438	85,244	335.1
H27	28,934	14,925	14,009	84,337	343.1
H28	27,185	14,782	12,403	83,544	325.4

(注) 清掃土砂、災害ごみを除く 資料：生活環境課

(注) コウノトリ共生課で作成

(2) ごみ種別搬入量 (単位：t)

年度	燃やすごみ	燃やさないごみ	びん・かん	ペットボトル	プラスチック製容器包装	紙製容器包装	計	水路土砂
H19	29,226	1,730	941	88	426	198	32,610	425
H20	26,270	1,586	898	80	424	190	29,448	369
H21	25,287	1,548	889	73	405	173	28,374	388
H22	24,798	1,497	863	81	395	162	27,796	412
H23	25,803	1,497	809	90	382	155	28,736	37
H24	25,942	1,609	784	90	370	146	28,941	0
H25	25,507	1,512	752	89	364	139	28,363	0
H26	25,858	1,457	693	82	348	131	28,569	0
H27	26,064	1,653	669	82	335	131	28,934	0
H28	24,507	1,549	582	86	339	122	27,185	0

資料：生活環境課

(3) 資源ごみ集団回収量 (単位：t)

年度	団体数	紙類	布類	スチール缶	ビン類	アルミ缶	牛乳パック	計
H19	680	3,747	90	1	30	43	10	3,921
H20	657	3,477	88	1	27	43	10	3,646
H21	667	3,323	86	1	25	49	9	3,493
H22	662	3,261	80	2	20	50	9	3,422
H23	635	3,078	79	2	17	51	9	3,236
H24	634	2,916	86	2	16	47	9	3,076
H25	644	2,913	81	2	14	43	9	3,062
H26	651	2,777	79	1	13	44	9	2,923
H27	663	2,575	80	1	12	42	8	2,718
H28	655	2,384	81	1	10	42	8	2,526
補助金単価 (※1)		6円	5円	5円	5円	5円	5円	
補助金単価 (※2)		7円	7円	2円	2円	2円	7円	

※1 1kg当たりの単価。ビン類（1升ビン、ビール瓶が対象）は2本を1kgに換算。

※2 平成24年度より補助金単価を変更。

資料：生活環境課

## 8. 指定文化財（平成29年3月31日現在）

区分	種別	国指定	県指定	市指定	計
有形文化財	建造物(石造物を含む)	6	6	43	55
	絵画	1	6	18	25
	彫刻	4	13	30	47
	工芸品	1	1	18	20
	書跡・典籍		1	30	31
	古文書			8	8
	考古資料		6	15	21
	歴史資料		1	3	4
無形文化財	無形文化財保持者			1	1
民俗文化財	有形民俗		1	7	8
	無形民俗		2	9	11
史跡名勝 天然記念物	史跡	2	6	30	38
	名勝	1	3	9	13
	天然記念物	2	12	21	35
	〃(地域を定めず)	7			7
	特別天然記念物				
〃(地域を定めず)	2			2	
伝統的 建造物群	伝統的建造物群 保存地区	1			1
計		27	58	242	327

資料：教育総務課

## 9. エネルギー

### (1) 電灯・電力消費量（単位：千kWh）

年度	総量	電灯	電力	その他
H22	296,084	254,286	41,798	未公表
H23	287,049	247,345	39,704	未公表
H24	278,367	240,801	37,566	未公表
H25	274,968	236,386	35,923	未公表
H26	262,558	226,692	33,736	未公表
H27	253,508	218,858	32,725	1,925
H28	非公表	非公表	非公表	非公表

- (注) 1 電灯とは、定額電灯、従量電灯、公衆街路灯、時間帯別電灯  
 2 電力とは、深夜電力、低圧電力、事業用電力  
 3 その他とは、建設工事用、臨時電灯・電力、農事用電力、融雪用電力  
 4 特定規模需要（自由化対象需要）の実績は含まない。

(2) ガスの業種別需要状況 (単位：千m<sup>3</sup>)

年度	総数	家庭用	業 務 用			
			計	商業用	工業用	その他
H22	7,363	2,804	4,559	2,059	36	2,464
H23	7,217	2,739	4,479	2,020	28	2,431
H24	7,184	2,672	4,512	2,109	25	2,378
H25	7,538	2,558	4,980	2,604	19	2,357
H26	7,620	2,546	5,074	2,709	17	2,348
H27	7,375	2,412	4,962	2,701	19	2,243
H28	7,589	2,394	5,195	2,779	16	2,400

※供給ガスの熱量は 45MJ/m<sup>3</sup> (10,750Kcal/m<sup>3</sup>)

資料：(株)豊岡エネルギー

(3) 太陽光発電システム設置状況 (単位 出力：kW；削減量：t)

設置年度	住宅		公共施設・事業所	
	出力	CO <sub>2</sub> 削減量	出力	CO <sub>2</sub> 削減量
平成 18 年度	106.7	33.6	3.0	0.9
平成 19 年度	87.7	27.6	4.8	1.5
平成 20 年度	121.2	38.1	40.3	12.7
平成 21 年度	254.4	67.4	8.7	2.3
平成 22 年度	301.4	79.9	399.7	105.9
平成 23 年度	350.5	98.5	23.8	6.7
平成 24 年度	407.6	168.8	695.2	287.8
平成 25 年度	346.8	164.8	1,027.6	488.1
平成 26 年度	131.1	67.6	5.5	2.8
平成 27 年度	147.2	77.0	1,123.0	587.3
平成 28 年度	169.5	84.1	25.0	12.4
計	2,424.1	907.4	3,356.6	1,508.4

※CO<sub>2</sub>削減量は環境省のデータにより算出(H28.3 調整)

資料：エコバレー推進課

10. 下水道普及率

年 度	処理区域	供用開始人口	普及率	水洗化済人口	水洗化率
H22	3,077ha	87,789 人	99.9%	78,869 人	89.8%
H23	3,083ha	87,003 人	99.9%	78,740 人	90.5%
H24	3,085ha	86,917 人	99.9%	79,364 人	91.3%
H25	3,089ha	86,165 人	99.9%	78,957 人	91.6%
H26	3,090ha	85,236 人	99.9%	78,323 人	91.9%
H27	3,094ha	84,333 人	99.9%	78,083 人	92.6%
H28	3,094ha	83,549 人	99.9%	77,644 人	92.9%

資料：下水道課





## 第4部 市の取り組み実績

### ■市の取り組みについて

環境基本計画第6章「3. 市の取り組み（行動指針）」に基づき、市の取り組み実績を整理しています。

## 行動指針 1 森林を保全し、活用します

### (1) 自然豊かな森林の保全、創造（森林の公益的機能の維持増進）

- ①多様な動植物の生息環境を守るため森林を保全
- ②無秩序な森林開発を抑制
- ③針葉樹と広葉樹の混交林整備を進め里山を保全

### (2) 林業の担い手育成支援と地元産材の利用促進

- ①林業の担い手を育成
- ②地元産、国内産の木材を利用
- ③公共施設を木造・木質化
- ④間伐材を活用した木材製品を利用
- ⑤間伐材の有効利用を検討
- ⑥木質バイオマスなど森林資源を有効利用

### (3) 森林での自然体験、ボランティア活動

- ①森林を体験学習、保健休養の場として活用
- ②間伐、枝打ちなどの森林ボランティア活動を検討

### (4) 災害に強い森づくり

土砂災害防止、水源かん養など森林の有する機能を維持増進

## 行動指針 1 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
除間伐等面積(市行造林) (ha)	73.57	68.60	27.38	32.92	50.74	75.51	50.83	61.82	35.6	32.32	農林水産課
広葉樹植樹面積(ha)	0.90	1.37	—	—	—	—	—	—	—	—	〃
〃 苗木提供数 (本)	420	300	137	117	86	130	53	35	60	40	〃
市施設木造・木質化数											
(新築) (棟)	1	5	3	0	4	2	1	4	1	3	建築住宅課
(増築) (棟)	0	3	1	2	1	2	1	1	0	1	
ペレットストーブ設置数(台)	4	35	45	48	161	27	0	18	0	0	農林水産課
住宅用ペレットストーブ設置補助数(件)					6	5	8	17	8	7	エコバレー推進課
〃 補助金額(万円)					102	90	143	282	138	129	〃
住宅用薪ストーブ設置補助数(件)							5	22	14	9	〃
〃 補助金額(万円)							99	435	280	280	〃
住宅用薪ボイラー設置補助数(件)								2	0	0	〃
〃 補助金額(万円)								34	0	0	〃
ペレットボイラー設置数(台)			1	1	1	1	1	0	0	0	農林水産課
奈佐森林公園利用者数(人)	5,036	5,482	5,081	3,606	3,874	4,703	4,367	4,737	5,167	5,532	〃
竹野南森林公園体験教室開催数(回)	6	6	6	6	6	5	7	6	6	7	竹野 地域振興課
〃 参加者数(人)	79	91	96	84	103	120	169	91	117	122	
竹伐採ボランティア数(人)	32	25	15	—	49	116	123	105	19	0	コウノトリ共生課
間伐材による土留工数(箇所)	102	192	188	158	107	56	22	24	20	22	農林水産課

## 行動指針 2 川や海などの水辺環境を保全します

### (1) 多自然型の川づくり、砂浜の侵食防止

- ①人と自然がふれあえる多自然型の川づくり
- ②砂浜の侵食を防ぐなど海辺を保全

### (2) 多様な生きものが生息できる水辺環境の保全

多様な生きものが生息できる水辺づくり

### (3) 河川等での環境美化活動

- ①地域等で行われる川の清掃活動促進
- ②海などでのごみの撤去
- ③川や海に流れ込む草、わら削減啓発
- ④川や海にごみを捨てない啓発

### (4) 水の利用と水質の保全

- ①水道の水質向上、水量確保
- ②節水や水の再利用
- ③下水道の整備、利用促進による水質悪化防止
- ④農業排水などによる川の水の濁り防止啓発
- ⑤石けん等の使用啓発

### (5) 水産業の振興

- ①資源管理型漁業（自主的な採捕制限）促進
- ②魚礁設置など自然環境に配慮した漁場拡大
- ③稚魚放流など水産資源の維持育成促進
- ④水産加工ごみの効率的な処理や有効活用支援
- ⑤水産業の担い手育成・確保

## 行動指針 2 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
湿地整備面積(新規)(ha)		3.20				5.42					ユウノトリ共生課
湿地管理ボランティア数(人)			457	521	190	208	312	212	249	402	〃
漁港漂着ごみ清掃委託数(箇所)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	農林水産課
海岸清掃・管理委託数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	建設課
海岸漂着物地域対策(GND事業)(t)	—	—	—	34.88	28.84	0.00	13.90	30.90	5.10	16.32	生活環境課
不法投棄監視カメラ(台)	—	—	—	6	6	6	6	6	6	6	〃
不法投棄防止看板設置・配布数(枚)	28	56	44	16	70	50	40	40	30	15	〃
上水道配水量(1人/日)(ℓ)	438	439	434	440	429	424	427	423	426	421	水道課
簡易水道配水量(1人/日)(ℓ)	419	412	395	411	399	398	395	392	416	423	〃
水洗化率(%)	86.2	88.2	88.8	89.8	90.5	91.3	91.6	91.9	92.6	92.9	下水道課
(公共下水道)	85.5	87.6	88.3	89.5	90.1	91.0	91.3	91.6	92.3	92.7	
(集落排水等)	88.6	90.2	90.8	91.1	92.0	92.5	92.7	92.9	93.6	93.9	
魚礁設置数(個)	113	0	98	120	0	0	110	88	57	48	農林水産課
河川の稚魚・貝放流補助金(万円)	81	188	191	173	191	191	191	191	191	191	〃

### 行動指針3 農業を将来にわたって維持します

#### (1) 環境創造型農業の推進

- ① 農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業推進
- ② 多様な生きものの生息場所、降雨時の保水のため農地の保全促進
- ③ たくさんの生きものが住む農地の拡大促進
- ④ 田んぼに生きものが生息できるための魚道等の整備促進
- ⑤ 山間棚田等での耕作放棄地の拡大防止

#### (2) 元気が出る農業づくりの推進

- ① 安全・安心な農産物生産促進
- ② 消費者と農業者との交流促進
- ③ 県森林動物研究センターと連携し有害鳥獣の計画的な駆除・防除
- ④ イノシシ肉などの食材としての利用検討

#### (3) 農業の担い手育成

- ① 認定農業者、農業後継者など多様な担い手の育成・確保
- ② 生産組織の育成による農業経営の効率化促進
- ③ 生産者、団体のネットワーク化促進

#### (4) 畜産業の振興

- 家畜ふん尿をたい肥として利用する耕畜連携促進

#### (5) グリーンツーリズムの推進

- 農家民宿、市民農園などによる体験交流型農業促進

### 行動指針3に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
コウノトリ育む農法作付面積 (ha)	157.0	183.1	212.3	219.5	234.1	251.6	269.7	292.7	329.3	366.1	農林水産課
育むお米 取扱店舗数 (店舗)			325	400	500	500	500	500	500	500	〃
農地・水・農村環境保全活動組織 (組織)	133	133	133	133	133	114	116	116	124	133	〃
冬期湛水水田面積 (ha)	20.4	64.8	72.2	83.5	137.0	189.3	212.4	251.7	254.3	401.1	〃
魚道設置箇所 (累計) (箇所)	106	110	110	110	110	110	110	110	141	141	〃
中山間地域等生産活動支援地区数 (地区)	39	39	38	32	32	32	36	36	40	40	〃
コウノトリの舞 認証団体数 (団体)	39	43	41	44	46	49	52	55	54	53	〃
同農産物数 (品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	31	〃
同食品数 (食品)			1	2	2	5	6	6	6	5	〃
認定農業者数 (経営体)	110	116	110	113	115	119	122	134	132	131	〃
集落営農組織数 (集落)	32	37	39	40	41	41	45	49	52	53	〃
農業法人数 (法人)	10	11	11	13	16	19	19	20	21	24	〃
J A たじま作物別生産部会数 (部会)	33	33	33	27	27	27	27	27	34	34	〃
耕畜連携堆肥利用事業面積 (ha)	125.0	135.4	152.2	152.8	150.8	165.1	167.2	181.3	148.4	164.9	〃
市民農園設置数 (箇所)	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	〃
市民農園設置数 (区画)	326	371	253	253	253	253	213	213	213	213	〃
同利用数 (区画)	192	137	194	194	194	201	185	133	170	138	〃

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
農業スクール研修生(人)							3	2	2	3	農林水産課
農家民宿数(戸)	5	5	5	5	5	5	5	4	4		〃
農地転用面積(許可書交付)(ha)		10.5	6.4	6.1	4.9	7.9	8.5	6.9	6.4	7.8	農業委員会
遊休農地面積(調査時の概括)(ha)		116.5	132.5	132.8	127.7	100.6	68.8	66.9	71.6	64.1	〃

・有害鳥獣の駆除、防除は、行動指針4に記載

#### 行動指針4 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します

##### (1) 多様な生きものの生息環境の保全

- ① ビオトープづくり推進
- ② 自然環境に配慮した多自然型工事推進
- ③ 開発時の野生動植物の生息・生育環境保全
- ④ 生きものとふれあう体験学習の場提供
- ⑤ 農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業推進

##### (2) 野生動植物の保護

- ① 野生動植物の生息・生育状況調査、情報提供
- ② 希少動植物保護
- ③ ペット動物は責任を持って飼育するよう啓発
- ④ 地域固有の生態系保全のため、外来種を持ち込まないよう啓発

##### (3) 野生動物対策の推進

- ① シカやイノシシ、クマなどの生息環境の保全、健全な里山づくり推進
- ② 県森林動物研究センターと連携した有害鳥獣の計画的な駆除・防除推進

##### (4) コウノトリの野生復帰の受け皿づくり

- ① コウノトリのエサ場、ねぐらなど生息環境保全
- ② コウノトリ野生復帰の取り組みの様々な情報発信

#### 行動指針4に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
ビオトープ水田面積(ha)	16.0	12.5	7.8	11.9	12.2	12.7	12.5	12.4	12.8	12.6	コウノトリ共生課
生きものとふれあう体験学習(公民館)回	3	5	5	5	6	7	7	6	5	2	〃
同(小学校)(校)	1	4	5	14	12	20	16	17	13	12	〃
コウノトリ KIDS クラブ(回)				7	9	8	8	8	9	8	〃
コウノトリ情報誌「PLY TO THE WILD」発行(回)	4	4	4	3	3	1	0	0	0		〃
小さな自然再生活動支援取組(事業)					2	3	1	4	8	10	〃
ペット飼育マナー啓発(広報掲載)(回)	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
〃(チラシ配布)(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	〃
外来種(魚)駆除回数(回)		1	1	1	1	1	1	1	2	1	コウノトリ共生課

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
防護柵設置延長(補助金分)(m)	43,021	24,730	71,628	42,174	69,679	73,557	19,290	37,530	42,713	93,452	農林水産課
地区数(地区)	48	32	47	22	57	29	17	21	29	41	
個人数(人)		57	76	42	104	62	28	59	59	51	
防護柵、掃蕩柵等補助金額(万円)	726	716	9,588	7,740	7,885	9,104	4,204	4,183	5,597	9,437	
有害鳥獣駆除数 シカ(頭)	1,410	2,238	2,334	3,104	2,689	2,675	3,483	4,041	4,815	4,247	〃
同 イノシシ(頭)	559	779	1,420	1,624	926	751	1,155	1,383	1,809	1,340	
同 その他(頭)	125	95	85	138	85	122	101	183	308	435	
バッファゾーン整備面積(ha)			19.34	18.93	17.40	26.49	15.00	15.00	15.00	0	〃
箇所数(箇所)			4	5	6	5	3	5	5	0	

- ・湿地整備は行動指針2に記載
- ・環境創造型農業(コウノトリ育む農法、コウノトリの舞、冬期湛水・中干し延期稲作型水田)は行動指針3に記載

### 行動指針5 地域の文化や景観を保存し、活用します

#### (1) 文化財の保護と活用

- ①文化財の保護活動推進
- ②開発時の文化財保護
- ③文化、歴史の講座開催

#### (2) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

伝統行事や文化の継承支援

#### (3) 芸術、文化活動の振興

芸術・文化活動の活性化支援

#### (4) 地域の特色ある景観の保全

- ①歴史や伝統のある建物、景観を生かしたまちづくり推進
- ②まちのシンボルとなる文化、歴史資源の観光への活用推進
- ③地域の特色ある景観の保全促進
- ④開発時の地域の景観配慮
- ⑤地域の植生にあった植栽推進
- ⑥屋外広告物、自動販売機の設置抑制検討
- ⑦電柱の地中化、美装化
- ⑧地域の風土に合った住宅の建設促進
- ⑨地元産材など昔からあった素材の使用

#### (5) 環境美化意識の高揚

- ①公共施設の緑化や花づくり推進
- ②道路への植樹、植栽とその適正管理
- ③地域の緑化や花づくり活動促進
- ④庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組み促進

#### (6) 緑豊かな公園の整備

- ①子どもから高齢者までが安心して遊び、憩えるように配慮
- ②自然環境、地形、地域の植生に配慮
- ③開発時の公園整備
- ④公園の清掃、適正管理
- ⑤施設、公園の利用上のルールやマナー啓発

### 行動指針5に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
遺跡確認調査件数(件)	7	7	5	5	3	12	8	12	13	16	教育総務課

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
文化財防災訓練数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	教育総務課
文化財パトロール数(件)			226	162	177	107	121	112	125	-	〃
文化財保護補助金交付数(件)	12	13	14	13	9	7	12	5	6	7	〃
〃 補助金額(万円)	16	30	518	251	193	33	77	608	1,392	112	〃
事業に先立つ埋蔵文化財調査数(件)	14	6	9	6	6	8	3	3	14	14	〃
発掘調査現地説明会数(回)		2	1	1	1	0	0	2	1	2	〃
但馬国府・国分寺館公開講座数(講座)	6	3	4	3	12	11	16	19	11	19	〃
〃 参加者数(延べ)(人)	332	290	552	238	389	248	417	323	305	643	〃
日本・モンゴル民族博物館体験講座数(講座)	12	10	23	16	10	7	8	11	9	7	文化振興課
〃 参加者数(延べ)(人)	94	70	344	162	112	82	94	140	106	169	〃
伝統芸能伝承事業補助数(件)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	教育総務課
〃 補助金額(万円)	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	〃
豊岡市美術展出品数(点)	6,893	6,829	6,394	6,281	6,337	6,422	6,316	6,111	5,970	5,925	文化振興課
〃 入場者数(人)	10,876	10,644	9,351	9,393	9,411	10,041	9,202	9,116	9,652	9,041	〃
入館者数(出石永楽館)(人)		未計数	14,733	16,370	14,191	15,102	17,751	18,066	25,263	22,316	〃
〃 (歴史博物館)(人)	9,204	9,034	10,030	9,512	8,007	8,345	7,727	8,090	8,319	7,120	教育総務課
〃 (日本・モンゴル民族博物館)(人)	17,136	16,848	14,591	11,623	10,553	11,755	10,657	10,017	9,840	9,885	文化振興課
〃 (豊岡市立美術館伊藤清久記念館)(人)	14,662	12,368	15,582	5,497	6,440	6,834	8,653	9,827	8,350	7,108	〃
〃 (植村直己冒険館)	36,849	31,109	28,835	25,259	30,900	22,866	25,062	26,999	26,051	22,651	生涯学習課
自主事業入場者数(豊岡市民会館)(人)	9,448	6,018	8,949	8,066	7,175	5,999	9,262	10,297	8,993	5,783	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	1,974	1,790	1,307	1,707	1,260	726	1,295	782	628	290	〃
使用者数(豊岡市民会館)(人)	142,938	113,173	108,517	110,204	115,611	107,932	88,071	80,889	94,591	85,745	〃
〃 (出石文化会館)(人)	18,193	20,148	20,662	22,769	17,732	17,017	12,915	19,312	17,014	21,211	〃
〃 (豊岡市民プラザ)(人)	105,106	107,005	104,758	113,184	120,973	128,437	123,746	116,678	109,734	119,528	生涯学習課
出石伝統的建造物群保存事業補助数(件)		4	5	7	5	6	5	4	5	4	教育総務課
〃 補助金額(万円)		1,773	2,258	3,581	2,996	3,221	2,331	2,366	2,450	2,490	〃
屋外広告物の許可数(件)	87	219	125	174	157	219	178	183	157	160	都市整備課
景観形成事業助成数(件)	5	9	3	8	3	3	5	4	1	6	〃
〃 助成金額(万円)	98	162	44	1,055	79	93	128	79	17	773	〃
花のある道づくり事業植栽花苗数(箇所)	29	29	27	28	27	27	27	27	22	22	生活環境課
「ヤナギ」植栽管理数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	〃
「サツキ」植栽数(箇所)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	〃
花苗の配布数(団体)	179	209	212	163	161	161	142	110	128	111	〃
花と緑のまちづくり事業数(回)		5	2	2	1	1	1	1	1	1	〃
都市公園数(箇所)	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	都市整備課

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
開発行為による公園数(箇所)	51	52	52	52	52	52	52	52	53	53	都市整備課
ジオパークジオガイド養成講座(回)				4	2	20	11	2	1	0	大交流課
小・中・高生ジオ講座受講者				277	134	60	164	32	0	109	〃

## 行動指針6 ごみの減量、再資源化を進めます

### (1) ごみの減量

- ①平成12年度比25%減量推進
- ②パンフレット、チラシ等の削減
- ③レジ袋削減、マイバッグ持参運動推進
- ④5R運動推進
- ⑤修理、修繕ができる人づくり、店づくり促進
- ⑥自動販売機の設置抑制検討
- ⑦レジ袋の有料化、包装の簡略化など環境への負荷を低減する販売方法促進
- ⑧環境への負荷を低減する製品開発促進
- ⑨市のルールによるごみの適正分別促進
- ⑩ごみや汚泥の広域処理計画推進

### (2) ごみの再資源化

- ①地区、PTA等による資源ごみの回収活動支援
- ②再生資源利用製品購入
- ③学校での児童・生徒によるリサイクル活動推進
- ④量販店等による空き容器、牛乳パック、食品トレーなどの拠点回収支援
- ⑤家庭から出る生ごみたい肥化支援

### (3) 環境美化意識の高揚

- ①クリーン作戦実施
- ②不法投棄やポイ捨て防止啓発
- ③飼い主による犬のフンの処理啓発

### (4) 事業活動による廃棄物の適正処理

- ①産業廃棄物、建設廃棄物の適正処理促進
- ②建築廃材の再利用促進
- ③農業廃棄物のリサイクル促進
- ④食品廃棄物の回収システム検討
- ⑤食品廃棄物のたい肥化促進

## 行動指針6に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
ごみ搬入量(t)	32,610	29,448	28,374	27,796	28,736	28,944	28,362	28,568	28,934	27,185	生活環境課
〃12年度(42,878t)との比較(%)	-24	-31	-34	-35	-33	-33	-34	-33	-32	-36	〃
レジ袋有料化等協定数(件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	〃
資源ごみ集団回収量(t)	3,921	3,646	3,451	3,422	3,242	3,076	3,062	2,922	2,718	2,526	〃
〃補助金申請団体数(延べ)(団体)	680	657	664	662	635	634	644	651	663	655	〃



取組みの内容	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H28	備考
〃 補助金額 (万円)	2,335	2,171	2,054	2,037	1,926	2,120	2,114	2,017	1,875	1,740	生活環境課
資源ごみ施設回収庫補助件数 (地区)	1	2	3	4	0	1	1	2	0	1	〃
市単価製物品のうち再生利用品 (品目)	108	97	101	94	95	89	89	89	89	89	総務課
〃 グリーン購入法適合品 (品目)	66	53	60	52	78	88	67	69	69	69	
〃 エコマーク付商品 (品目)	45	39	81	27	28	57	50	53	53	53	
学校資源ごみ回収実施校数 (小中学校 (校))	10	12	28	28	34	36	35	29	36	33	こども教育課
学校でのリサイクル活動 (小学校 (校))	2	26	24	23	28	30	29	29	29	29	〃
〃 (中学校) (校)	3	8	6	6	10	10	10	10	9	9	〃
空き容器回収機回収量 (万本)	118	222	249	212	101	79	25	—	—	—	生活環境課
電気式生ごみ処理機補助金件数 (件)	137	106	83	84	90	36	48	37	34	27	〃
クリーン担当10万人大作戦参加人員 (人)	36,909	36,459	30,124	37,964	32,449	37,256	36,594	37,040	35,839	37,502	〃
〃 ごみ回収量 (t)	373.61	397.94	379.32	461.32	472.08	558.42	565.88	694.1	597	527	
犬のフン啓発看板配布数 (枚)	32	47	91	41	33	25	25	25	20	6	〃
豊前市農業用ビオマスプラント道徳処理協議会処理 (t)	333	302	303	244	275	317	274	259	337	323	農林水産課
豊前市農業用ビオマスプラント道徳処理協議会処理量 (t)	41,310	38,720	44,035	21,440	42,490	41,940	33,764	36,885	39,021	42,203	
再生利用者指定数 (件)	3		1	4	4	5	6	6	6	6	生活環境課

## 行動指針7 地域力を高めま

### (1) 河川等での環境美化活動

地域等で行われる川の清掃活動促進

### (2) 農業の担い手育成

生産組織の育成による農業経営の効率化促進

### (3) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

地域に伝わる伝統行事、文化の継承支援

### (4) 地域の特色ある景観の保全

地域の特色ある景観の保全促進

### (5) 環境美化意識の高揚

- ① 地域の緑化や花づくり活動促進
- ② 庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組み促進

### (6) 地域における環境教育の推進

- ① リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進
- ② 幼児期から環境に関する家庭教育促進
- ③ 子どもエコクラブ活動促進

### (7) 環境を考える事業の実施

- ① 市民環境講座実施
- ② 環境問題をテーマにした各種イベント実施

### (8) 環境に取り組む団体の育成

地域で環境活動に取り組む団体や個人の育成・支援

## 行動指針 7 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H 2 0	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	備考
コウノトリ文化館市民講座開催回数(回)	4	10	5	3	4	2	4	1	14	22	コウノトリ共生課
マイバッグ啓発活動実施店舗数(件)	1	11	13	6	8	4	3	3	1	1	生活環境課
地域力再生補助(環境活動支援)件数(団体)	6	3	5	2	2	2	2	0	0	1	コミュニティ政策課
〃 補助金額(万円)	202	56	48	37	23	38	43	0	0	50	
健康・環境エコポイント制度											
健康ポイント手帳交付者数(人)									4,429	4,860	健康増進課
環境行動実践者数(人)									281	535	エコバレー推進課
市民エコポイント発行数(P)						24,888	49,689	41,800			〃
企業エコポイント発行数(P)						294.5万	483.5万	545.5万			〃

## 行動指針 8 地域から学ぶ学習・教育を進めます

### (1) 環境に関する学校教育の推進

- ① 幼稚園、小・中学校で環境教育推進
- ② 身近な自然や歴史・文化を理解するための教育推進

### (2) 地域や事業所等における環境教育の推進

- ① リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進
- ② 事業所における環境学習協力
- ③ 幼児期からの環境に関する家庭教育促進
- ④ 子どもエコクラブ活動促進

### (3) 体験活動の推進

- ① ふるさとに愛着を持ち、地域資源を見つめ直す体験活動支援
- ② 家族で参加できる自然体験活動や自然観察会実施
- ③ 子どもたちが自由に遊べるような自然の確保

## 行動指針 8 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	備考
地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育実施校数											こども教育課
(小学校)	17	20	22	22	22	23	23	29	23	23	
(中学校)	4	4	4	4	4	7	7	7	8	6	
地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数											〃
(小学校)	8	30	30	30	30	30	30	29	18	21	
(中学校)	1	0	1	1	1	4	4	5	7	4	
自然学校参加者数(人)		870	862	851	847	828	762	749	747	702	〃
農業体験(稲作)実施校数(小学校)	13	13	14	20	20	22	20	19	18	20	〃

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
里山観察等実施校数(小学校)		9	8	7	7	20	16	14	18	16	こども教育課
川の体験活動実施数(小学校)(校)		11	17	19	22	29	27	28	29	29	〃
小・中学校フイティ・フイティシステムによる削減結果 (平成26年からシステム見直しのため22年比) ※平成25年度以前は17年度比(%)	-5.2	-3.9	-10.7	-7.7	-10.0	-8.6	-11.2	-7.4	-8.2	-7.6	教育総務課
出前講座(環境学習関係)実施回数(回)	6	9	22	23	14	15	71	20	10	12	秘書広報課
〃 受講者数(人)	257	247	652	703	332	564	3,987	762	188	299	
出張! 田んぼの学校(回)			3	3	4	11	16	20	24	21	コウノトリ共生課
子どもの野生復帰大作戦参加者数											生涯学習課
(子どもコース)(人)	155	198	235	152	99	99	83	67	62	61	
(指導者養成)(人)	32	12	30			24	11	0	—	—	
(親子コース)(組)			44	67	52	51	61	66	45	40	
(野外キャンプ)(人)		159	138	62	72	73	91	115	57	—	

## 行動指針9 環境意識を高めます

### (1) 環境を考える事業の実施

- ① 市民環境大学など市民向けの環境学習講座実施
- ② 環境問題をテーマにした各種イベント実施

### (2) 環境美化意識の高揚

- ① 地区等で行われる環境美化活動支援
- ② 不法投棄やポイ捨ての防止啓発

### (3) 環境に取り組む団体の育成

- ① 環境活動に取り組む団体育成推進
- ② 市民、事業所、学校、市の環境活動に関する情報の共有と活動のネットワークづくり推進

## 行動指針9に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
エコハウス暮らしの講座等実施(回)				8	8	7	1	0	0	0	エコバレー推進課
環境ポイント参加者数(人)									281	535	エコバレー推進課

- ・ 市民環境大学は行動指針7に記載
- ・ 環境美化意識の高揚は行動指針5に記載

## 行動指針 10 環境に関する知の集積を図ります

### 環境を研究する機関の誘致

- ①環境をテーマに研究する高等教育機関の誘致推進
- ②高等教育機関を核とした研究者や企業の交流促進
- ③異業種の交流促進
- ④環境経済型企業の育成・誘致推進
- ⑤事業者と研究者をつなぎ、産学連携を効果的に推進

## 行動指針 10 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
産学連携協定締結数(校)			1	1	1	0	0	0	0	0	エコバレー推進課
コウノトリ野生復帰学術研究補助(件)		4	9	8	5	7	7	7	6	-	コウノトリ共生課
高校生等地域研究支援補助金(件)										2	〃

## 行動指針 11 地産地消を進めます

### (1) 安全、安心な農林水産物の地元消費

- ①地元でとれた安全・安心な農林水産物を学校給食で使用
- ②地元でとれた安全・安心な農林水産物の地元消費促進
- ③食品の産地表示促進

### (2) 消費者と農業者との交流

消費者と農業生産者との交流促進

### (3) 食生活の向上と食育

- ①環境にやさしい料理方法などを普及啓発
- ②旬の野菜や伝統食の良さを普及啓発
- ③食に関する情報提供
- ④乳幼児から発達段階に応じた食育推進

## 行動指針 11 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
学校給食での豊岡産野菜利用率(%)	27.6	28.6	31.1	28.0	26.8	23.1	22.8	28.9	27.1	22.0	教育総務課
学校給食での米飯給食回数(週5日のうち)											〃
市内産米(回)	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	
うちコウノトリ育むお米(回)	0	0	1	1	2	2	2	2	3	5	
コウノトリの舞認証農産物数(品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	31	農林水産課
〃 加工品数(商品)			1	2	2	5	6	6	6	5	
マロニエの里認証商品数(商品)	47	46	23	21	21	21	15	20	14	0	日高 地域振興課
旬を楽しむ会実施回数(回)								2	2	2	エコバレー推進課
〃 延べ参加人数(人)								200	200	200	エコバレー推進課

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
市広報での食育PR回数(回)			6	6	4	4	3	0	0	0	健康増進課
成人向け栄養改善教室実施回数(回)	58	57	80	96	201	240	192	179	138	137	〃
〃 受講者数(延べ)(人)	988	810	1,483	1,969	2,967	2,419	2,033	2,165	1,991	1,995	
食育教室(保育園・幼稚園)実施回数(回)	14	17	32	36	34	36	33	38	36	36	〃
〃 受講者数(延べ)(人)	420	589	767	874	745	861	919	1,193	1,056	1,077	
〃(未就学児・保護者)実施回数(回)	24	13	23	78	77	80	40	33	36	45	
〃 受講者数(延べ)(人)	357	175	365	405	546	611	550	583	498	724	
離乳食講習会実施回数(回)	88	90	88	90	90	90	87	87	87	88	〃
〃 受講者数(延べ)(人)	1,362	1,535	1,326	1,478	1,344	1,458	1,373	1,220	1,175	1,235	
幼児食講習会実施回数(回)		123	123	106	106	106	98	97	96	94	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)		800	1,512	1,444	1,519	1,435	1,517	1,316	1,362	1,222	
子育てセンター食育事業回数(回)	33	21	14	22	23	18	18	23	36	52	こども育成課
保育園料理教室等開催回数(園)	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	〃

・食品の産地表示促進（コウノトリの舞認証農産物）は行動指針3に記載

## 行動指針 12 環境と経済の共鳴を進めます

### (1) 豊岡型地産地消の推進

- ① 農薬や化学肥料に頼らない農産物のブランド化支援
- ② 朝市や農林漁業体験活動支援
- ③ エコ商品開発、リサイクル等の環境経済型の事業（エコビジネス）促進

### (2) 環境創造型農業の推進

農薬や化学肥料に頼らない安全・安心な農産物の生産推進

### (3) コウノトリツーリズムの展開

- ① コウノトリ、自然、歴史、文化資源等を生かした多様なツーリズム推進
- ② 市民によるツーリズムガイド養成

### (4) 環境経済型企業の集積

- ① 環境経済型企業の育成・誘致
- ② 環境経済型の技術開発やゼロエミッションに取り組む企業支援
- ③ 異業種交流促進

### (5) 自然エネルギーの利用

省エネルギーを経済効果に結びつけ、新エネルギーを導入した事業活動促進

### (6) 環境ビジネスの創出支援

排出されたごみを可能な限り再利用する循環型の経済活動支援

・ 農薬や化学肥料に頼らない農産物は行動指針 3 に記載

## 行動指針 12 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	備考
直売所設置数（件）	36	42	40	40	39	39	39	39	39	39	農林水産課
ファーマーズマーケット設置数（件）	5	5	6	6	7	6	6	6	6	6	〃
コウノトリ文化館入館者数（人）	455,373	417,159	365,349	301,575	297,056	305,712	304,348	297,232	285,449	230,734	コウノトリ共生課
ツーリズムガイド利用者数（人）		8	269	674	626	279	217	206	281	247	〃
環境経済事業推進補助金（件）	4	5	8								エコバレー推進課
〃 補助金額（万円）	425	499	661								
技術革新等支援事業補助金（件）				7	6	8	2	4	1	4	〃
（環境経済型関係）〃 補助金額（万円）				1,036	1,329	1,371	321	330	303	505	
環境経済認定事業数（件）						35	6	5	10	6	〃

### 行動指針 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります

#### (1) 日常生活における環境負荷の確認

- ① 家庭での節水や節電など環境行動普及啓発
- ② 環境家計簿普及啓発

#### (2) 新エネルギーの利用

- ① 太陽光発電システムを公共施設に率先導入
- ② 個人住宅への太陽光発電システム設置支援
- ③ 新エネルギーの導入、利用
- ④ バイオマスエネルギーの導入、利用

#### (3) 自動車から排出する二酸化炭素の削減

- ① アイドリングストップなどのエコドライブ促進
- ② 京阪神等遠隔地への公共交通機関利用促進
- ③ 低公害車・低燃費車購入
- ④ 保有車両の適正点検
- ⑤ 共同輸配送など車の利用の合理化

#### (4) 省エネルギーの推進

- ① 省エネルギーを考えて施設・設備整備
- ② 省エネ器具購入
- ③ 使用しない電気機器は電源切断
- ④ 冷暖房温度を夏 28 度、冬 20 度に設定
- ⑤ 自動販売機の設置抑制検討

### 行動指針 13 に関する豊岡市の取組み

・ バイオマスエネルギーの導入・利用は行動指針 1 に記載

取組みの内容	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	備考
市施設への太陽光発電設置数(箇所)	1	5	3	28	2	3	5	1	1	1	エコバレー推進課
〃 設置量 (kw)	4.80	17.71	8.40	399.70	23.76	695.22	350	5.5	1,123	25	
住宅用太陽光発電設置補助件数(件)	23	34	66	73	78	88	78	30	29	37	〃
〃 設置量 (kw)	87.68	121.16	254.41	301.40	350.53	407.65	346.88	138.41	147.19	205.42	
〃 補助金額 (万円)	412	586	1,199	1,288	1,449	1,191	1,003	335	341	446	〃
アイドリングストップ啓発回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
但馬空港飛行機利用助成人数(人)	11,508	11,292	13,007	12,582	12,134	10,387	12,367	12,457	11,379	11,507	都市整備課
〃 助成金 (万円)	6,515	6,872	6,468	5,963	5,749	5,019	5,819	6,046	5,711	5,646	〃
低公害車・低燃費車購入台数(台)	27	11	3							0	総務課
公用車 低公害車・低燃費車割合(%)		49.4	53.8	57.7	64.0	62.5	70.5	70.0	68.7	65.9	〃
省エネ器具購入数(件)	27	11	34	37	17	11	13	12	19	45	〃
市の施設のCO2削減(%) (H19 排出量比)				5.10	8.04	8.44	9.76	12.91	14.51	19.86	〃
校庭庭芝生化学業の実施(校庭)			7	14	9	9	5	2	0	0	教育総務課
校庭庭芝生化学業の実施(m <sup>2</sup> )			15,880	32,220	29,880	28,440	15,520	3,650	0	0	〃

## 行動指針 14 公害を防止します（大気汚染、騒音、悪臭、振動、土壌汚染、光害）

### (1) 大気汚染

- ①大気汚染物質の発生防止指導、啓発
- ②廃棄物等の野焼き防止指導、啓発
- ③公共交通機関利用促進
- ④粉塵の発生防止指導、啓発
- ⑤アイドリングストップなどエコドライブ推進

### (2) 騒音・振動の防止

- ①基準を超える騒音、振動等の発生防止指導、啓発
- ②保有車両の適正点検、整備

### (3) 悪臭の防止

- ①悪臭の発生防止指導、啓発
- ②家畜ふん尿等の適正処理指導、啓発

### (4) 地盤沈下の防止

地下水の利用抑制促進

### (5) 工業等における適切な事業活動の推進

- ①公害発生防止の監視、指導、啓発
- ②公害防止協定締結による公害未然防止
- ③水質汚染・土壌汚染調査の定期的な実施、公表

### (6) 有害化学物質の適正な管理

有害化学物質の適正管理指導

### (7) 光害の低減

光害の低減検討

## 行動指針 14 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	備考
大気汚染の苦情受理件数 (件)	6	6	9	9	5	15	5	11	20	11	生活環境課
JR豊岡市民号利用者数 (人)	208	147	142	107	75					0	都市整備課
市街地循環バス(コバス)利用者数 (人)	37,257	37,688	40,744	47,175	47,796	48,216	47,438	50,395	51,066	56,100	〃
市営バス(イナカー)利用者数 (人)		51,729	93,956	81,736	77,815	79,065	74,543	59,496	58,102	59,130	〃
市職員「e通勤」実施者数 (人)		49	529	459	449	438	419	417	405	396	〃
豊岡ノーマイカー参加者数 (人)						1,181	2,133	1,415	1,697	1,584	〃
騒音・振動等特定施設届出施設数 (施設)	50	41	16	33	54	25	28	28	43	34	生活環境課
特定建設作業の届出件数 (件)	717	644	619	511	549	528	636	520	395	433	〃
騒音・振動の苦情受理件数 (件)	5	6	6	4	5	3	5	1	5	4	〃
悪臭の苦情受理件数 (件)	6	5	8	9	6	8	4	7	12	6	〃
水質・土壌汚染苦情受理件数 (件)	20	20	15	13	16	7	1	4	4	7	〃



## 第5部 前年度環境審議会意見の反映状況 (市の取り組み)

### ■環境審議会意見の反映

前年度の環境報告書で示された環境審議会の意見を、市がどのように施策に反映させたかを整理しています。

## 目標像 01 「里山」

### ■有害獣対策について、広域連携の強化を図ることについて

#### 【農林水産課】

生息状況の変化により、銃猟による捕獲が困難になってきており、市域をまたぐ合同捕獲の効果が得にくくなってきています。

今後、市町境での捕獲は、県主導の「指定管理鳥獣捕獲等事業」で県認定事業者が実施することとなります。

### ■「ノアの方舟作戦」の更なる取り組みについて

#### 【コウノトリ共生課】

獣害防護柵設置により植生を保全する「ノアの方舟作戦」は市内6カ所で実施しており、いずれの箇所においても防護柵内で顕著な食害は見られず、植生保全に効果があると確認しています。平成29年度に関しては、有識者によるエリア巡回及び防護柵内の希少植物の生育状況を検証することで、より効果的な保全の実施を図るとともに、防護柵の増設を2カ所行う予定です。

### ■ペレットストーブや、薪ストーブの、農業用あるいは、普及の進んでいない施設への周知、働きかけについて

#### 【エコバレー推進課】

住宅用及び事業所用ペレットストーブ購入補助制度の活用を促すため、市広報やホームページを活用し、引き続き普及に努めます。なお、市が管理する施設への設置は完了しているため、新たな設置は考えていません。

## 目標像 02 「田んぼ」

### ■「豊岡型環境創造型農業」を、慣行農法農業者への働きかけについて

#### 【農林水産課】

平成28年度の豊岡型環境創造型農業による水稻作付面積は約1,023ヘクタールで、市内全面積の36.8%にまで拡大しました。平成33年度の過半数達成を目指し、関係機関と連携して豊岡型環境創造型農業への取り組みをさらに進めます。

### ■放棄田を活用したビオトープづくりへの支援メニューの積極的な周知について

#### 【コウノトリ共生課】

水田ビオトープはコウノトリのエサ場になるとともに、子どもたちの環境学習の場にもなります。ビオトープを作ったり自然環境を考える活動を促すために、「小さな自然再生活動支援助成事業」による支援を実施しています。平成28年度は10団体がこの助成事業を活用し、内、2団体が休耕田をビオトープ化しました。市広報や市HPで助成事業を積極的に周知し、水田ビオトープの増設を推進します。

## 目標像 03 「川」

### ■不法投棄などへの監視活動などの継続について

#### 【生活環境課】

円山川を美しくする協議会や豊岡市環境衛生推進協議会が主催するパトロールに市も参加し、円山川流域の不法投棄状況を把握するとともに、ごみの不法投棄防止を啓発しました。

また、各地区がクリーン作戦等ボランティア清掃に伴い、河川に不法投棄された物を引き上げられた場合には、生活環境課で収集を行いました。

さらに、河川へ流れ込むことを防止するため、クリーン作戦実施の際の注意事項として、河川の法面の刈り草を放置しないよう区長あて文書にて依頼しました。

## 目標像 04 「海辺」

■ウォーキングイベントなどの際にウォーキングだけでなく、一緒にごみを拾って歩くなどを市民へ意識づけすることについて

【健康増進課】

歩いて暮らすまちづくりの中では、積極的に行っていません。

スポーツ振興課と連携して行っている「チャレンジデー」では、近年スポーツごみ拾いイベントが採り入れられていません。

【生活環境課】

清掃等ボランティア活動も拡がっており、その活動で集積されたごみを生活環境課で回収しました。

## 目標像 05 「祭り・行事」

■伝統行事の現状の把握について

【教育総務課】

市内各地域の祭礼・年中行事を平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間継続調査し「豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書」にまとめました。

調査結果の活用については、歴史文化基本構想の中で、「地域らしさ」の特性として反映しており、現在、実施団体や地域に報告し、地域づくり・後継者育成に役立てていただくようにすすめているところです。

## 目標像 06 「コウノトリ」

■「豊岡市生物多様性地域戦略」の更なる推進について

【コウノトリ共生課】

平成 29 年度で「豊岡市生物多様性地域戦略」策定から 5 年が経過することから、短期戦略の見直しを行います。また、科学的根拠に基づいた自然再生の実践方法や支援策を構築し、市民自らが自然再生活動に取り組むための「自然再生アクションプラン」の策定を行い、地域・市民・関係機関等の力を活かした生物多様性保全を目指します。

## 目標像 07 「ごみ」

■ごみ減量を市民に意識づけるため、地道な啓発活動について

【生活環境課】

豊岡市環境衛生推進協議、豊岡くらしの会と共催でマイバッグ持参運動を実施した。レジ袋を削減してごみ減量の推進を図るとともに、資源を大切に使う意識を高めるために、買い物の際は買い物袋を持参することを市民に呼びかけました。

■リサイクルの啓発やリサイクル活動拠点の周知について

【生活環境課】

リサイクルを啓発するため、資源ごみ集団回収事業補助金について広報に掲載し、活用促進を図った。平成 28 年度は延べ 655 団体が集団回収を実施されました。

また、電気式生ごみ処理機の購入費補助について活用促進を図るために、平成 26、27 年度に補助を受けられた方を対象にアンケートを実施しました。生ごみのたい肥化に取り組まれ、ゴミの減量につながっている実績が把握できました。

## 目標像 08 「道草」

### ■子どもたちと地域の大人たちとの交流の取り組みの拡充について

#### 【コミュニティ政策課】

地区運動会、三世代交流グラウンドゴルフ大会、三世代交流そば打ち大会など、多くの地区公民館で子どもたちと地域の大人たちとの交流事業を実施しています。

#### 【生涯学習課】

従来から、青少年を非行から守り健全な育成を図るため、学校及び関係諸団体と連携を図りながら様々な活動に取り組んでおります。具体的には「あいさつ運動」の普及啓発、「夏休みラジオ体操顔見知り運動」の推進、啓発などを継続して実施しています。

全市をあげて、地域・家庭・学校・行政がさらに緊密な連携・協力・情報交換に取り組み、地域の中で子どもたちがより積極的に地域の大人たちとの関わりをもつよう取り組みを継続しています。

#### 【こども教育課】

オープンスクールを実施し、引き続き地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、児童生徒の地域行事への参加を呼びかけていきます。

## 目標像 09 「豊岡ブランド」

### ■「コウノトリ育むお米」について、一層の販促・PRについて

#### 【農林水産課】

コウノトリ育むお米の販売促進・PR については、歌舞伎俳優の片岡愛之助さんをイメージキャラクターに登用し、県・市・JA たじまが一体となって進めています。また海外での販売促進についても、市場調査を進めながら、求められる商品や数量、価格帯を把握し、一層の販売促進・PR を進めます。

### ■豊岡産のお米や野菜が学校給食で使用されていることについて、もっと内外に周知することについて

#### 【教育総務課】

学校給食では、平成 28 年度からコウノトリ育む農法栽培米(減農薬栽培米)の使用を週 5 回とし、ホームページや献立表に掲載して周知を行っています。

## 目標像 10 「省エネ」

### ■市街地循環バスなどをもっと PR することについて

#### 【都市整備課】

市街地循環バス「コバス」を広く市民のみなさんに知っていただくため、市発行媒体での PR 記事掲載や、市内イベントでの周知に努めています。

より市民のみなさんに知っていただくため、機会を捉えた周知に努めます。

### ■「雪室」の実証実験など新しい自然エネルギーへの取り組みを、もっと市民へも周知すべきでは

#### 【エコバレー推進課】

中筋小学校、清滝小学校の児童を対象に、雪室の取り組みを周知するイベントを実施しました。記者配布を行い、新聞、テレビ等のメディアに取り上げられました。

ライフスタイルデザインプロジェクトの一環として、市のホームページ、フェイスブック、コミュニティだより等で情報発信しました。

今後とも、給食だより等を通じて、各小学校に周知していきます。

雪室の保存品目を増やし、雪室ブランドとして広く販売することで、商品を通じて市民に周知

していきます。

■身近な省エネ行動を、市民や事業所に対して引き続き周知徹底を図るような、具体的な取組みについて

【エコバレー推進課】

太陽光発電システム設置補助金、木質バイオマス補助金を通じて、省エネ行動を促しています。

健康・環境ポイント手帳の登録を推進し、省エネ行動への取組みを促しています。

市広報やホームページにより、節電やクールスポットを紹介する等、省エネ行動を促しています。

平成 29 年度から新たに取り組むエコ事業所宣言により、事業者に対し広く省エネを周知していきます。

健康・環境ポイントの見直しを行い、さらに市民に取組みやすい事業を提供し、省エネ行動を促していきます。

【教育総務課】

学校でできる省エネ活動の一覧表やステッカーなどの配布をして、学校が省エネ活動に取り組みやすいようにしています。



## 第6部 平成30年度の環境に関する取組みに向けて 豊岡市環境審議会の意見

### ■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や感想をまとめています。

## (1)「目標とする姿」ごとの取り組みについて

### 目標像 01 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

ペレットの消費が伸び悩んでいます。ペレットの利用は身近な森林環境の保全に寄与することや、市域内からお金が流出しないなど、「環境と経済の共鳴」に寄与します。化石燃料との違いについての周知をさらに進め、消費者の意識改革を促す取組みを進める必要があります。特に、子どもたちが木質バイオマスを利用することの意義を理解することは、山への関心を高めることにつながるため、平成 27 年度に作成した絵本や紙芝居を活用した授業などの実施を期待します。

住宅用・事業所用ペレットストーブ、薪ストーブを普及させるため、今後、農家あるいは福祉施設などへの導入の働きかけや、ペレットの需要を伸ばす方策について関係機関の協議の場を設けるなど、積極的な打開策を期待します。

### 目標像 02 里山が様々に利用され、関わる人が増えています

熊の目撃情報が減ることがなく、山菜狩りなど、山に入るのをためらう人が増えています。熊の駆除を適正に進めると共に、山に市民が入る時の安全確保策などについての周知に努める必要があります。

また、里山がバッファゾーン（緩衝地帯）として機能するよう、里山を気軽に利用できる仕組みづくりを考えていく必要があります。地域外の人も豊岡の森を訪ねてくれるような仕掛けづくりや、今までとは違う発想での里山の利活用についても前向きな検討が望まれます。

### 目標像 03 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

耕作放棄地は、景観も悪く、有害鳥獣が人里へ近づく原因の一つでもあり、小学校区に少なくとも 1 カ所のビオトープの設置が望まれます。そのためには、支援制度の P R や耕作放棄地の所有者への働きかけなど、明確な目標設定をもって進める必要があります。

平成 30 年度から、米の直接支払交付金制度もなくなる中、復田など農地の利用が進むような働きかけも望まれます。

コウノトリ育む農法がさらに広がるよう、慣行農法を続けている生産者への働きかけと共に、消費者である市民への意識喚起も必要です。その意味でも、学校給食が毎日（5 日/週）米飯（コウノトリ育むお米）になったことは、特筆すべきことです。ただ、そのことが普通のことになり、保護者や子どもたちにその趣旨等を伝える機会が減っているように感じます。各家庭や学校においても賛同の輪が広がるよう、なぜ給食でコウノトリ育むお米を使うのかを繰り返し説明する取組みを期待します。

### 目標像 04 あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

学校の P T A 活動や地域の子ども会の活動で、川や海辺を利用している事例を集め、他の団体が参考にできるような情報の提供が望まれます。

河川の法面などの刈草対策については、文書による啓発だけでなく、下流域や海岸部での実態も伝えるなど、取組みがより進むような働きかけが望まれます。高齢化している地区の刈草を運び出す作業に、都市部からの学生ボランティアを募るなど、「都市と農村の交流」による、地域課題の解決にもつながる取組みが期待されます。



## 目標像 05 コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

自然環境下におけるコウノトリの孵化が、徳島県鳴門市や島根県雲南市で実現しました。今後、他の自治体においても孵化・繁殖が期待できます。このような状況の中、コウノトリ野生復帰の先行自治体として、「豊岡市生物多様性地域戦略」の更なる推進を期待します。

また、豊岡に生息する希少なヒサマツミドリシジミ（蝶）などが、販売目的で採取されています。生息地となる植物があるエリアなどを、ノアの方舟作戦の対象エリアとして拡充することが必要です。

## 目標像 06 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

自然環境を守るためには、子どもたちが地域に愛着をいただき、日頃からの地域での結びつきが保たれることが大切です。コミュニティ組織や各地区においては、ラジオ体操での顔見知り運動の他に、地域の防災訓練において中学生に役割を担ってもらうなど、地域の大人と子どもたちがつながるための取り組みも増えているようです。引き続き、中学生だけでなく高校生も参加できる行事や、ふるさとのことを学べる機会の提供等について積極的に取り組むことを期待します。

秋祭りを続けていくことが困難な地区が増えています。ここでも中高生の参加が期待されますが、試験やスポーツ大会の日程と重なることもあるようです。中高生が参加できるように日程調整を行うことが関係者に望まれます。

## 目標像 07 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

学校などで実施する自然体験活動が効果的に実施されるよう、スクールインタープリター（※）の養成や活用について検討してはどうでしょうか。生物多様性地域戦略で提案されている、地域コミュニティごとの「生きもの地図」作りなどが、実施されるような働きかけを期待します。

コウノトリKIDSクラブや子どもの野生復帰大作戦などの参加者も減ってきています。少子化の影響もあるのかもしれませんが、参加者が増えるよう、それぞれの事業の特色を明確にし、PR方法を工夫することが必要です。

※野外での体験活動などを通じ、自然の素晴らしさ、大切さを分かりやすく伝える役割を担います。主に、小学校で生活科や総合学習の自然に関わる部分の学校サポーターのことを、スクールインタープリターと言います。

## 目標像 08 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

第1次計画の目標は達成し、1人あたりのごみ排出量も減少傾向に転じました。今後もごみの減量化を意識し続けることが重要であり、学校や地域などでの地道な啓発活動を継続して行うことが必要です。加えて、リサイクルの啓発やリサイクル活動の拠点を定期的に周知する必要があります。

## 目標像 09 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

市街地循環バスや市営バス（イナカー）の利用者が、今後もさらに増えるよう、引き続きPRに努めることを期待します。

新たに始まった「エコ事業所宣言」が広く知られ、環境問題に取り組むことによるメリットがより明確に可視化され、様々なエコ活動に取組む事業所が増えるよう、あらゆる機会を利用

したPRを期待します。

また、各地域コミュニティセンターなどとの連携や、それぞれの役割を果たしながら、地球温暖化防止対策実行計画の着実な推進が望まれます。

## 目標像 10 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

ラムサール条約湿地や、ユネスコ世界ジオパークといった、世界が認めるブランドを豊岡でとれる第一次産品などと結びつけることによって、その付加価値を高める取り組みを望みます。また、学校給食での地元産野菜の利用率が向上するような対策を進めることを期待します。

## (2)まとめ

第1次環境基本計画（平成19年度～28年度）で設定した目標像にもとづく環境報告書は、今回が最後になります。そのため今回の環境報告書には、2つの工夫が凝らされています。ひとつは、平成28年度評価に加えて、過去10年間の取り組みの結果と今後の課題が一目でわかるように、目標像ごとに「10年間評価」をおこなっていることです。もうひとつは、第2次環境基本計画へスムーズに移行できるように、環境審議会の意見が第2次計画の目標像に従って整理されている点です。

過去10年間の評価の変化をおおまかに見ますと、目標像の「06」「08」は高い評価（「よくなりました」と「この調子でがんばろう」）を保ち、目標像の「02」「09」「10」は低い評価（「もっとがんばろう」）から高い評価へと評価をあげました。市民の方々や事業所、市が地道な取り組みを重ねた成果といえるでしょう。しかしながらその一方で、目標像の「03」「05」「07」は高い評価から低い評価へと評価を下げ、目標像の「01」「04」は低い評価のままです。これらの低い評価の目標像は、里山・川・海辺にかかわるものと、地域の行事・ごみの量にかかわるものです。

第2次環境基本計画の目標像は、このような第1次環境基本計画の成果のさらなる進展と、そこで十分に達成できなかった諸課題を実現するために設定されています。これまでの10年間の取り組みをふまえて、これからの10年を実りあるものにする鍵は、それぞれの目標像の実現を担う社会的な仕組みの構築にあると思われます。幸いなことに、平成29年度から地域コミュニティ組織が市内の全29地区で本格的に始動しました。この組織は、環境基本計画の取り組み主体である「市民」・「事業者」・「市」の三者の結節点となり、目標像の実現に大きく寄与する可能性を秘めています。

環境審議会は、第2次環境基本計画で設定した目標とする姿の実現に向けて、市民や事業者の活動、市の施策を注視するだけでなく、地域コミュニティ組織にも注目したいと考えています。

平成29年11月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣
	副会長	雀部 真理
	委 員	内海 京子・太田垣秀典・岡崎 典子
		日下部昌男・毛戸 勝・菅村 定昌
		土川 忠浩・寺田 正文・橋本 道江
		和田 芳文・佐伯 雅代・友田 達也
		濱本 晋一



**【お願い】**

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、みなさんのご意見・ご感想や、ご提案・  
取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町 2 番 4 号

電 話 番 号：2 1 - 9 0 1 7（直）

F A X 番 号：2 4 - 7 8 0 1

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：